

表 2.2.2-57 予測結果（両生類）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ヒキガエル	確認状況	調査Ⅰ：[]等の3箇所で幼体が、[]等の3箇所で幼生が確認された。 調査Ⅶ：[]の1箇所で確認された。		
	予測結果			
ニホンアマガエル	確認状況	調査Ⅰ：[]の1箇所では2個体の鳴き声が確認された。		
	予測結果			

※ヒキガエルは「アズマヒキガエル」の場合を想定して予測した。

表 2.2.2-58 予測結果（昆虫類①）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ホソミオツネトンボ	確認状況	調査Ⅶ： [] において1箇所で確認された。		
	予測結果	[]	[]	[]
アオイトトンボ	確認状況	調査Ⅱ： [] 周辺の2箇所を確認された。 調査Ⅶ： [] 内の1箇所を確認された。		
	予測結果	[]	[]	[]
ハラビロトンボ	確認状況	調査Ⅰ： [] 1箇所にて1個体が確認された。		
	予測結果	[]	[]	[]

表 2.2.2-59 予測結果（昆虫類②）

種名	項目	橋梁案	掘削案	地下案
マユタテアカネ	確認状況	調査Ⅱ： [] において確認された。 調査Ⅶ： [] 内の1箇所を確認された。		
	予測結果	[]	[]	[]
ミヤマアカネ	確認状況	調査Ⅱ： [] において確認された。 調査Ⅲ： [] において確認された。 調査Ⅵ： [] において確認された。		
	予測結果	[]	[]	[]
リスアカネ	確認状況	調査Ⅰ： [] 1箇所にて1個体が確認された。		
	予測結果	[]	[]	[]

表 2.2.2-60 予測結果（昆虫類③）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
エノキカイガラ ラキジラミ	確認 状況	調査 I : [] 内において、合計 4 箇所 で 210 個 の虫えいが確認された。		
	予測 結果	[]	[]	[]
オオアメンボ	確認 状況	調査 I : [] 1 箇所 で 1 個体が確認された。		
	予測 結果	[]	[]	[]
ギンイチモン ジセセリ	確認 状況	調査 VII : [] の 1 箇所 で確認された。		
	予測 結果	[]	[]	[]
ジャノメチョ ウ	確認 状況	調査 II : [] において確認された。		
	予測 結果	[]	[]	[]

表 2.2.2-61 予測結果（昆虫類⑤）

種名	項目	橋梁案	掘削案	地下案
ホシミスジ	確認状況	調査VI： [] において確認された。 調査VII： [] 内の1箇所を確認された。		
	予測結果			
ヒオドシチョウ	確認状況	調査I： [] 内の2箇所にてエノキを食べる幼虫 106個体が確認された。		
	予測結果			
ムナピロアオゴミムシ	確認状況	調査I： [] において確認された。		
	予測結果			
ウバタマムシ	確認状況	調査I： [] 1箇所にて1個体が確認された。		
	予測結果			

表 2.2.2-62 予測結果（昆虫類⑥）

種名	項目	橋梁案	掘削案	地下案
ヤマトタマムシ	確認状況	調査Ⅲ： [] において確認された。 調査Ⅵ： [] において確認された。 調査Ⅶ： [] において1箇所確認された。		
	予測結果			
トラフカミキリ	確認状況	調査Ⅰ： [] 付近において、1箇所1個体が確認された		
	予測結果			
モンスズメバチ	確認状況	調査Ⅰ： [] 内において、2箇所7個体が確認された。 調査Ⅲ： [] において1箇所確認された。		
	予測結果			
クロマルハナバチ	確認状況	調査Ⅶ： [] 内において1箇所確認された。		
	予測結果			

表 2.2.2-63 予測結果（クモ類）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
キシノウエト タテグモ	確認 状況	調査Ⅶ： <input type="text"/> 内において1箇所を確認された。		
	予測 結果			

表 2.2.2-64 予測結果（陸産貝類）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
スナガイ	確認 状況	調査Ⅶ： <input type="text"/> 内において1箇所を確認された。		
	予測 結果			

表 2.2.2-65 予測結果（魚類①）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ギンブナ (フナ類)	確認 状況	調査Ⅰ： [] において、6箇所 で6個体が確認され た。 調査Ⅲ： [] において 確認された。 調査Ⅳ： [] において 確認された。 調査Ⅴ： [] において 1箇所以上確認され た。 調査Ⅵ： [] において 確認された。		
	予測 結果			
オイカワ	確認 状況	調査Ⅰ： [] の11箇所 で11個体が確認され た。 調査Ⅱ： [] において 確認された。 調査Ⅲ： [] において 確認された。 調査Ⅳ： [] において 確認された。 調査Ⅴ： [] において 確認された。 調査Ⅵ： [] において 確認された。		
	予測 結果			

表 2.2.2-66 予測結果（魚類②）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ドジョウ類	確認状況	調査Ⅰ： [] において、1箇所では1個体が確認された。 調査Ⅱ： [] において1箇所では確認された。 調査Ⅲ： [] において1箇所では確認された。 調査Ⅳ： [] において2箇所では確認された。 調査Ⅴ： [] において1箇所では確認された。 調査Ⅵ： [] において3箇所では10個体が確認された。		
	予測結果			
ヒガシシマドジョウ（シマドジョウ種群）	確認状況	調査Ⅰ： [] の16箇所では16個体が確認された。 調査Ⅱ： [] の2箇所では確認された。 調査Ⅲ： [] の1箇所では確認された。 調査Ⅵ： [] の3箇所では7個体が確認された。		
	予測結果			

表 2.2.2-67 予測結果（魚類③）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ホトケドジョウ	確認状況	調査Ⅱ： [] において1箇所を確認された。		
	予測結果	[]		
ミナミメダカ (メダカ類)	確認状況	調査Ⅰ： [] において7箇所て7個体を確認された。 調査Ⅱ： [] において7箇所て確認された。 調査Ⅲ： [] において5箇所て確認された。 調査Ⅳ： [] において6箇所て確認された。 調査Ⅴ： [] において12箇所て確認された。 調査Ⅵ： [] 確認された。		
	予測結果	[]		
ウキゴリ	確認状況	調査Ⅴ： [] において確認された。		
	予測結果	[]		

表 2.2.2-68 予測結果（底生動物①）

種名	項目	橋梁案	掘削案	地下案
ナガオカモノ アラガイ	確認 状況	調査 I : [] に生育する植物上の 1 箇所 で 2 個体 が 確認 され た。		
	予測 結果	[]		
カワコザラガ イ	確認 状況	調査 IV : [] において 確認 された。 調査 VI : [] において 確認 された。		
	予測 結果	[]		

表 2.2.2-69 予測結果（底生動物②）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
スジエビ	確認状況	調査Ⅰ： [] において1箇所にて2個体が確認された。 調査Ⅱ： [] において1箇所にて2個体が確認された。 調査Ⅵ： [] において1箇所にて2個体が確認された。		
	予測結果	[Redacted]		
オオアメンボ	確認状況	調査Ⅰ： [] の1箇所にて1個体が確認された。		
	予測結果	[Redacted]		

表 2.2.2-70 予測結果（底生動物③）

種名	項目	橋梁案	掘削案	地下案
センブリ属	確認 状況	調査VI： において確認された。		
	予測 結果			

※センブリ属は「ネグロセンブリ」、「トウホククロセンブリ」、「ヤマトセンブリ」の場合を想定して予測した。

表 2.2.2-71 予測結果（植物①）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ナツノハナワ ラビ	確認 状況	調査 I : <input type="text"/> 内の 3 箇所 で 3 株 が 確認 された。		
	予測 結果			
ウマノスズク サ	確認 状況	調査 VII : <input type="text"/> 内の 1 箇所 で 確認 された。		
	予測 結果			
ギンラン	確認 状況	調査 VII : <input type="text"/> 内の 1 箇所 で 確認 された。		
	予測 結果			

表 2.2.2-72 予測結果 (植物②)

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
キンラン	確認状況	調査 I : [] などの 2 箇所 で 17 株 が 確認 され た。また、 [] 内の 3 箇所 で 6 株 が 確認 され た。 調査 VII : [] などの 3 箇所 で 確認 され た。また、 [] 内の 1 箇所 で 確認 され た。		
	予測結果			
ササバギンラン	確認状況	調査 I : [] 内の 1 箇所 で 1 株 が 確認 され た。		
	予測結果			
ノカンゾウ	確認状況	調査 I : [] 沿いの 草地 の 2 箇所 で 60 株 が 確認 され た。 調査 II : [] で 確認 され た。 調査 III : [] で 確認 され た。 調査 IV : [] で 確認 され た。 調査 VI : [] で 確認 され た。 調査 VII : [] 内の 5 箇所 で 確認 され た。		
	予測結果			

表 2.2.2-73 予測結果（植物③）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
キツネノカミソリ	確認状況	調査Ⅶ： <input type="checkbox"/> 内の3箇所を確認された。		
	予測結果	[Redacted]		
ミクリ	確認状況	調査Ⅰ： <input type="checkbox"/> の12箇所で21株が確認された。 調査Ⅱ： <input type="checkbox"/> の3箇所を確認された。 調査Ⅲ： <input type="checkbox"/> の3箇所を確認された。 調査Ⅳ： <input type="checkbox"/> の4箇所を確認された。 調査Ⅴ： <input type="checkbox"/> の3箇所を確認された。 調査Ⅵ： <input type="checkbox"/> の8箇所で10株以上が確認された。		
	予測結果	[Redacted]		

表 2.2.2-74 予測結果 (植物④)

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ウキヤガラ	確認状況	調査 I : [] の 19 箇所 で 49 株 以上 が 確認 され た。 調査 II : [] で 3 箇所 確認 され た。 調査 III : [] で 5 箇所 確認 され た。 調査 IV : [] で 4 箇所 確認 され た。 調査 V : [] で 5 箇所 確認 され た。 調査 VI : [] の 16 箇所 で 15 株 以上 が 確認 され た。		
	予測結果			
ミコシガヤ	確認状況	調査 I : [] 1 箇所 で 1 株 が 確認 され た。 調査 III : [] で 確認 され た。 調査 IV : [] で 確認 され た。 調査 V : [] で 確認 され た。 調査 VI : [] で 確認 され た。 ※調査 I (2021 年度) の 夏季 に 確認 され た 個 体 は、その 後の 草刈り により 消 失 し た と され る。(資 料 : 環 境 概 況 調 査 委 託 (2 北 南 - 小 金 井 3・4・11 外 1 路 線) 報 告 書 (令 和 3 年 11 月、ユ ーロフ ィ ン 日 本 環 境 株 式 会 社))		
	予測結果			

表 2.2.2-75 予測結果 (植物⑤)

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
カンエンガヤツリ	確認状況	調査Ⅲ： [] の4箇所を確認された。		
	予測結果	[]		
ニリンソウ	確認状況	調査Ⅰ： [] の1箇所、調査Ⅶ： [] の2箇所、調査Ⅷ： [] の2箇所を確認された。		
	予測結果	[]		
ズミ	確認状況	調査Ⅳ： [] で確認された。		
	予測結果	[]		

表 2.2.2-76 予測結果（植物⑥）

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ジャヤナギ	確認状況	調査Ⅴ：[]において、1箇所1株が確認された。 ※2019年度以降は確認されておらず、小型の株だったため消失されたとされる。（資料：環境概況調査委託（2北南-小金井3・4・11外1路線）報告書（令和3年11月、ユーロフィン日本環境株式会社）		
	予測結果	[]		
カワヂシャ	確認状況	調査Ⅰ：[]で1箇所1株が確認された。 調査Ⅲ：[]で1箇所が確認された。 調査Ⅵ：[]で3箇所4.3m ² が確認された。		
	予測結果	[]		

表 2.2.2-77 予測結果 (植物⑦)

種名	項目	橋梁案	掘割案	地下案
ハッカ	確認 状況	調査Ⅳ： <input type="checkbox"/> で確認された。 調査Ⅴ： <input type="checkbox"/> で確認された。 調査Ⅵ： <input type="checkbox"/> で確認された。		
	予測 結果			
タカサブロウ	確認 状況	調査Ⅳ： <input type="checkbox"/> で確認された。		
	予測 結果			

表 2.2.2-78 予測結果（生態系：環境類型区分の変化の内容及びその程度）

種名	橋梁案	掘割案	地下案
樹林地	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
湿性草地・水域 (流水域)			
湿性草地・水域 (止水域)	[Redacted]	[Redacted]	
植栽樹群			
乾性草地 (人工草地)			

表 2.2.2-79 予測結果（生態系：生態系において注目される種への影響）

環境	項目	選定種	橋梁案	掘削案	地下案
水域	上位性	アオサギ			
	典型性	モツゴ			
陸域	上位性	タヌキ			
	典型性	シジュウカラ			
		ムクドリ			

表 2.2.2-80 予測結果（生態系：生物の相互関係への影響）

橋梁案	掘削案	地下案

資 料 編

注目される種確認位置図

橋梁案	資- 1
掘割案	資-14
地下案	資-27

※各案の計画線および改変範囲と注目される種の位置関係を示した図をそれぞれ作成した。

※()内の数字は、確認数（確認面積）を示している。なお、調査報告書に確認数の記録がないものについては「不明」としている。

※東京都及び環境省のレッドリストの更新に伴い、追加となった種に関しては、調査Ⅱ（2015年度）～調査Ⅵ（2019年度）において位置情報の記録を行っていないため、図面には記載していない。

対象外

凡例

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲
- 調査Ⅰ 2021年度
- 調査Ⅶ 2022年度

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

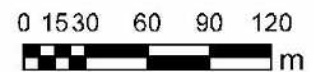


図 注目される種確認位置 (鳥類)
(橋梁案)

対象外



凡例

- 計画線(橋梁案)
- 調査Ⅰ 2021年度
- 施工範囲(橋梁案)
- 調査Ⅶ 2022年度
- 動物調査範囲

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

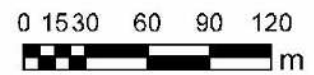


図 注目される種確認位置 (爬虫類)
(橋梁案)



対象外

野水

凡例

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲
- 調査Ⅰ 2021年度
- 調査Ⅶ 2022年度

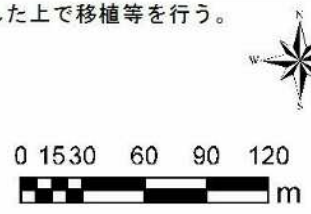


図 注目される種確認位置 (両生類)
(橋梁案)

対象外



凡例

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| —— 計画線(橋梁案) | ● 調査Ⅰ 2021年度 | ● 調査Ⅴ 2018年度 |
| ■ 施工範囲(橋梁案) | ● 調査Ⅱ 2015年度 | ● 調査Ⅵ 2019年度 |
| ■ 動物調査範囲 | ● 調査Ⅲ 2016年度 | ● 調査Ⅶ 2022年度 |
| | ● 調査Ⅳ 2017年度 | |

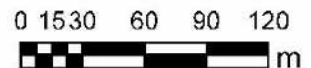
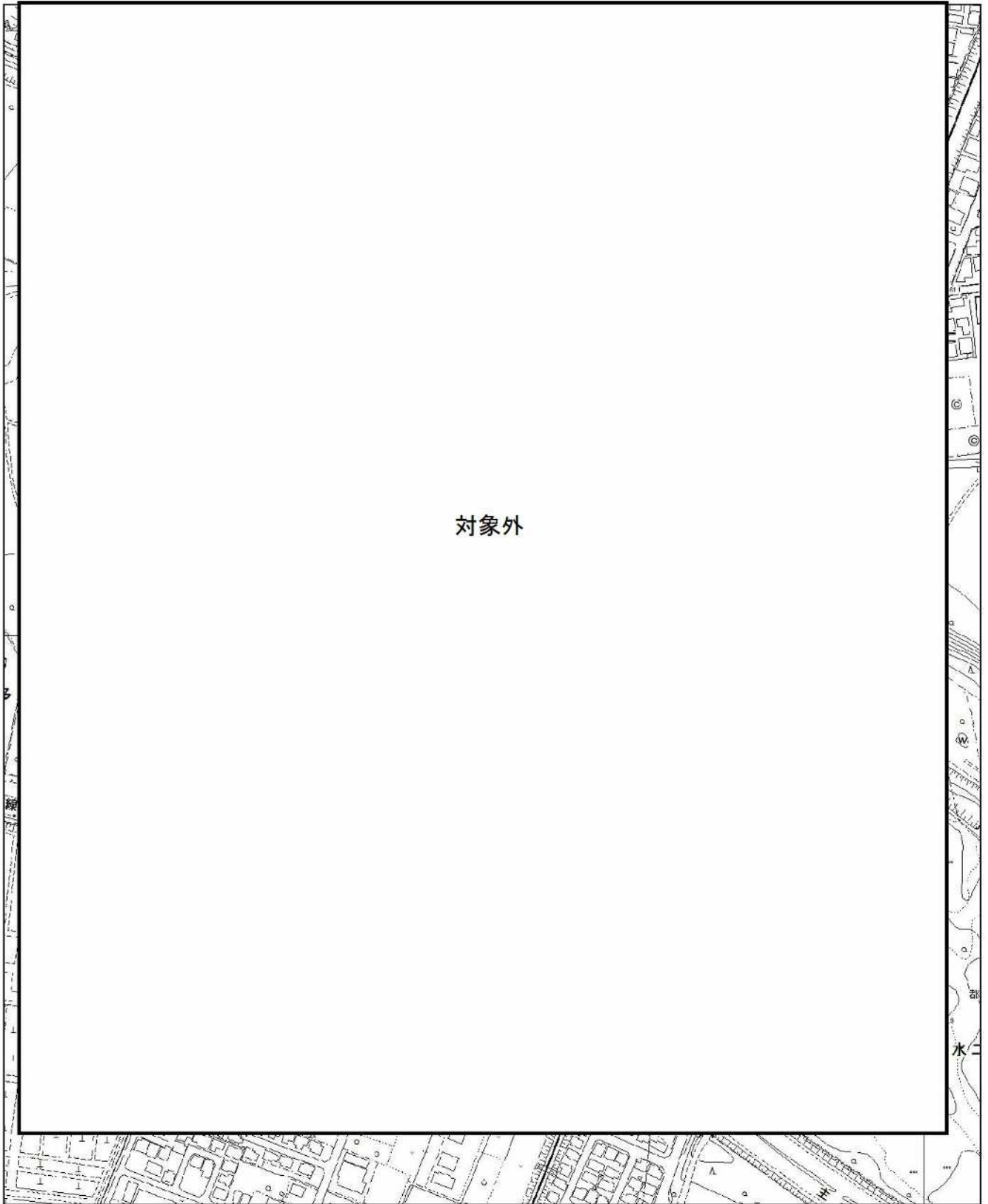


図 注目される種確認位置 (昆虫類)
(橋梁案)



対象外

水二

凡例

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

- 計画線(橋梁案)
- 調査Ⅶ 2022年度
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲

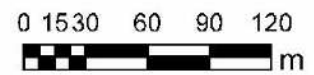
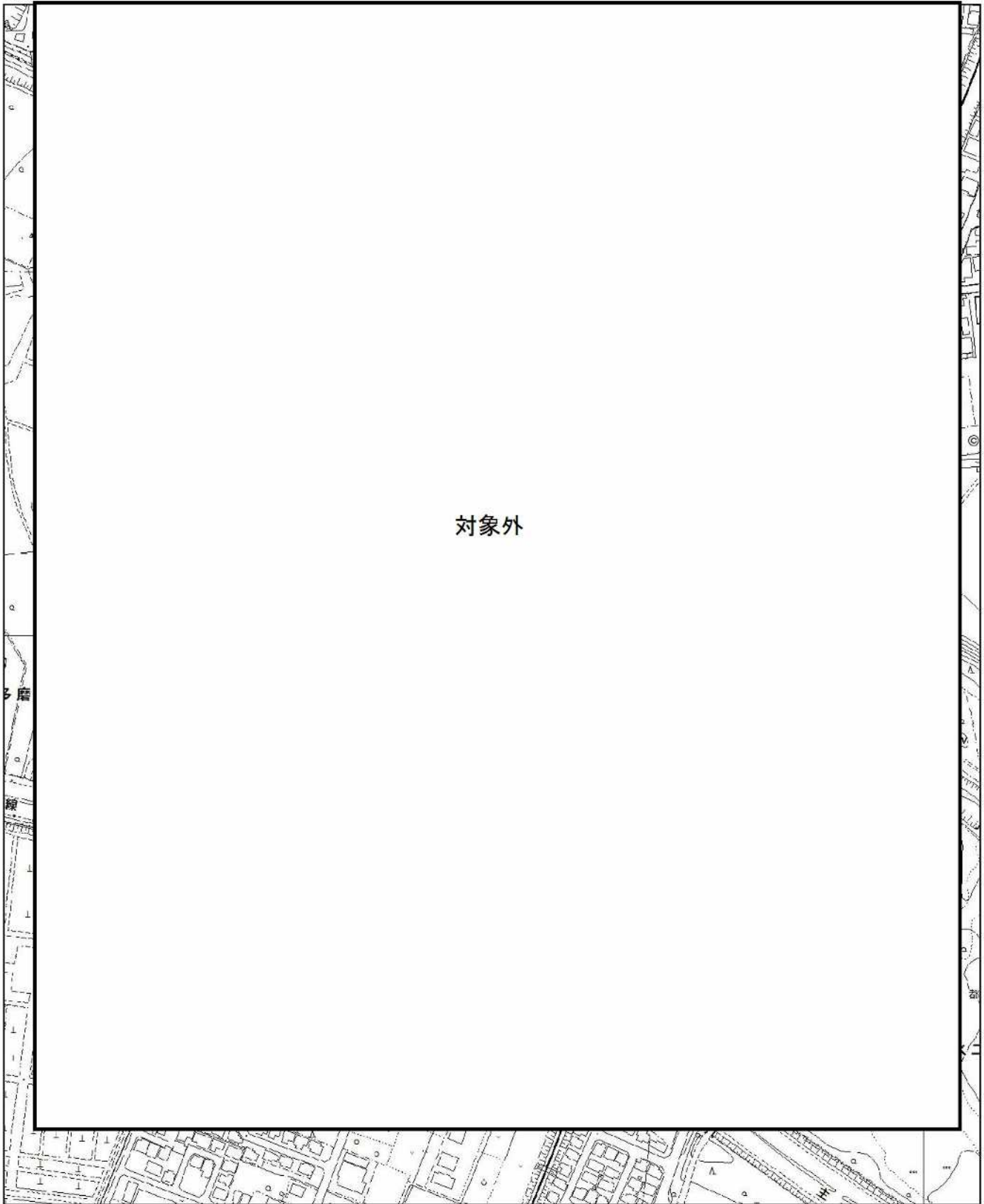


図 注目される種確認位置 (クモ類)
(橋梁案)



対象外

凡例

- 計画線(橋梁案)
- 調査Ⅶ 2022年度
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

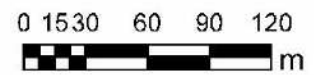
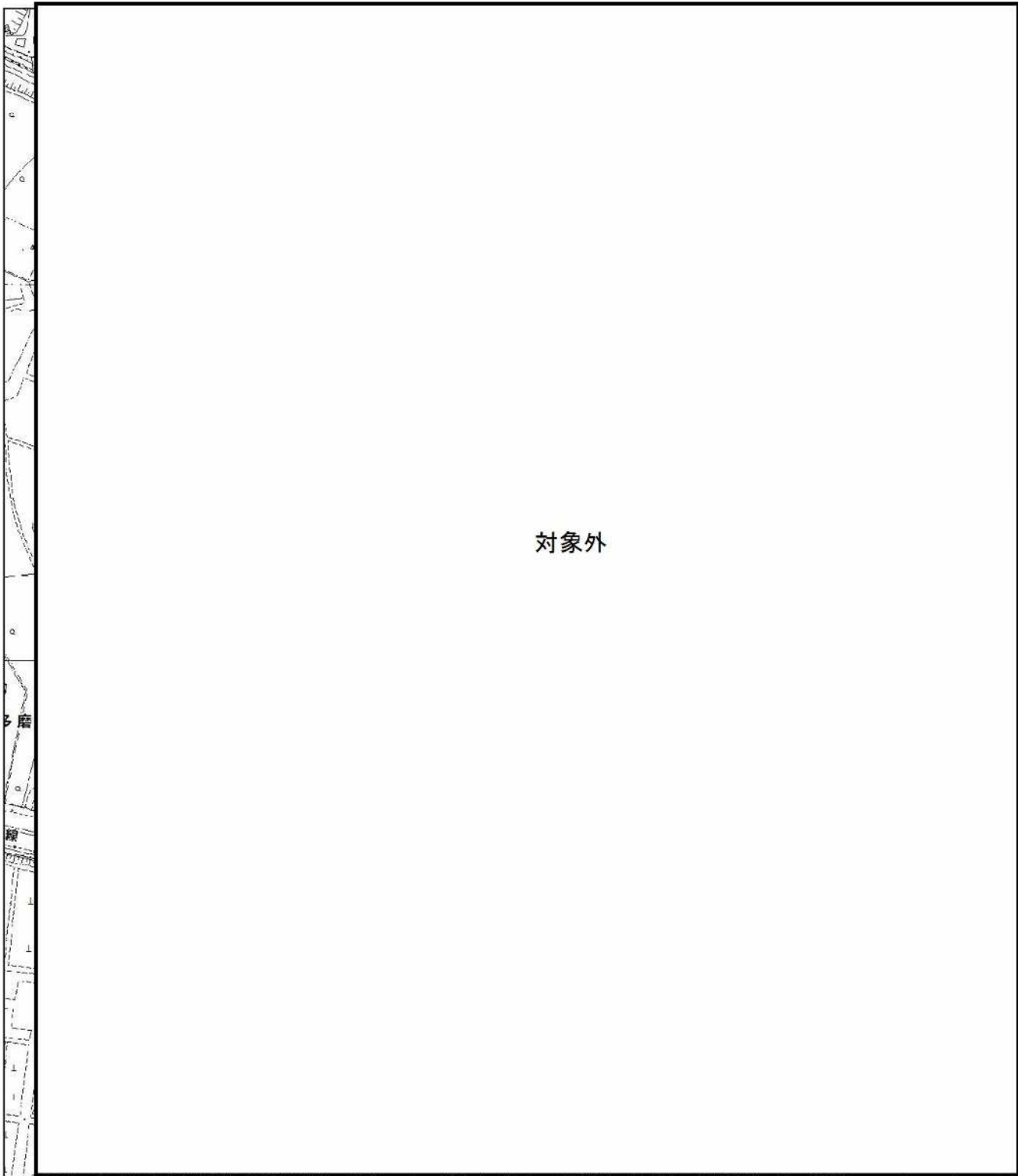


図 注目される種確認位置 (陸産貝類)
(橋梁案)



対象外

凡例

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度

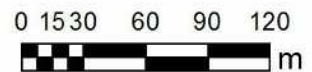


図 注目される種確認位置 (魚類)
(橋梁案)

対象外

凡例

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

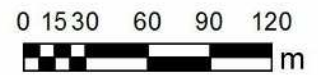


図 注目される種確認位置
(シマドジョウ種群) (橋梁案)



対象外

凡例

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

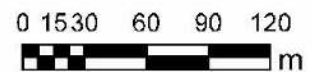


図 注目される種確認位置 (メダカ類)
(橋梁案)

対象外

凡例

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 動物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

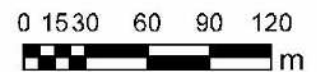
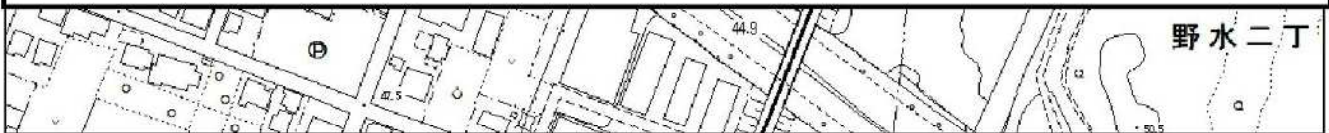


図 注目される種確認位置 (底生動物)
(橋梁案)

対象外



※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

凡例

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| —— 計画線(橋梁案) | ● 調査 I 2021年度 | ● 調査 VI 2019年度 |
| ■ 施工範囲(橋梁案) | ■ 調査 I 2021年度 | ● 調査 VII 2022年度 |
| □ 植物調査範囲 | ● 調査 II 2015年度 | ■ 調査 VII 2022年度 |
| | ● 調査 III 2016年度 | |
| | ● 調査 IV 2017年度 | |
| | ● 調査 V 2018年度 | |

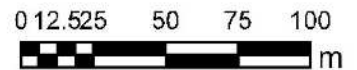
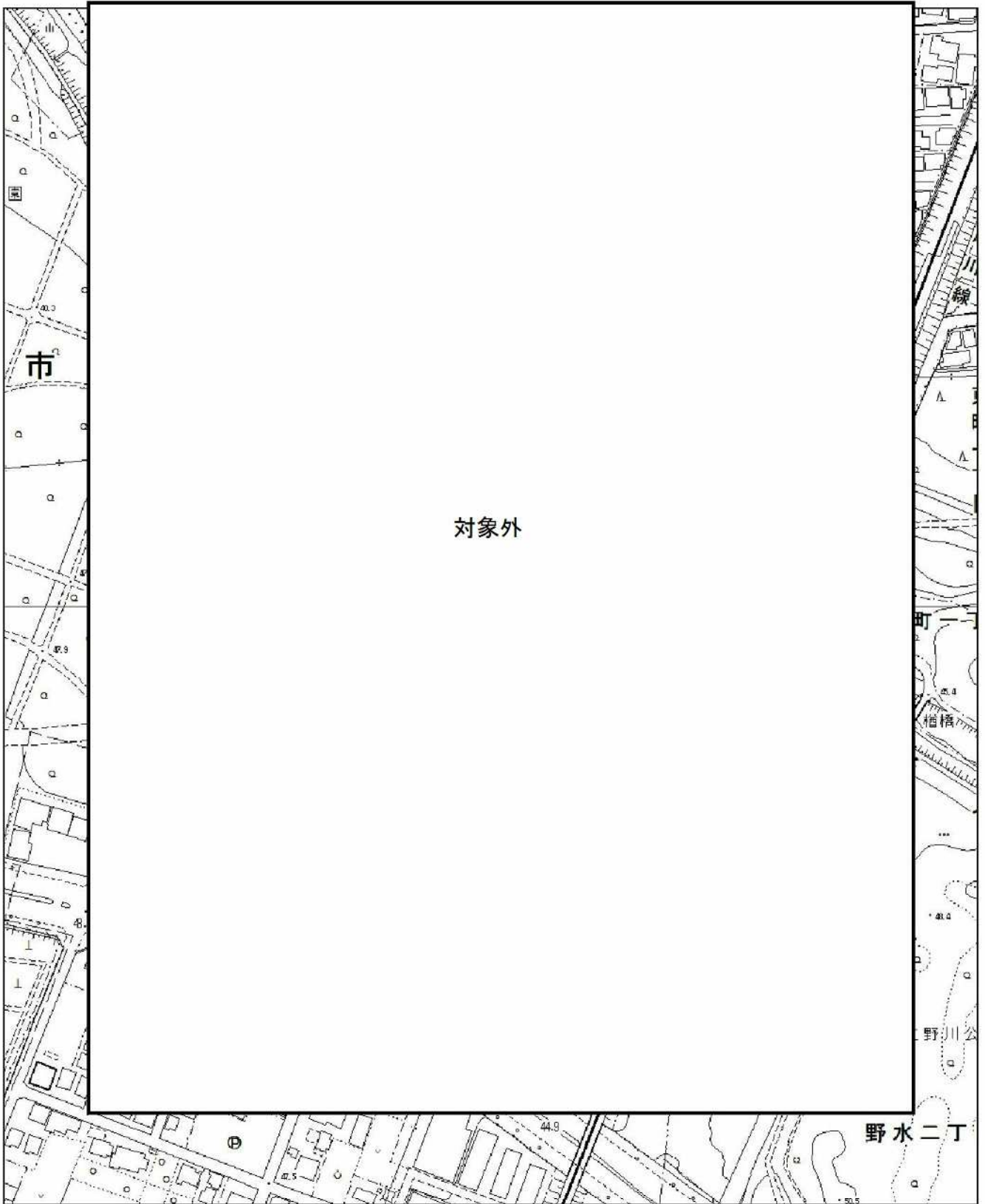


図 注目される種確認位置 (植物)
(橋梁案)



対象外

野水二丁

凡例

※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

- 計画線(橋梁案)
- 施工範囲(橋梁案)
- 植物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度
- 調査 VII 2022年度
- 調査 VII 2022年度

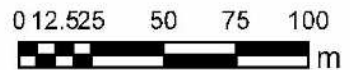
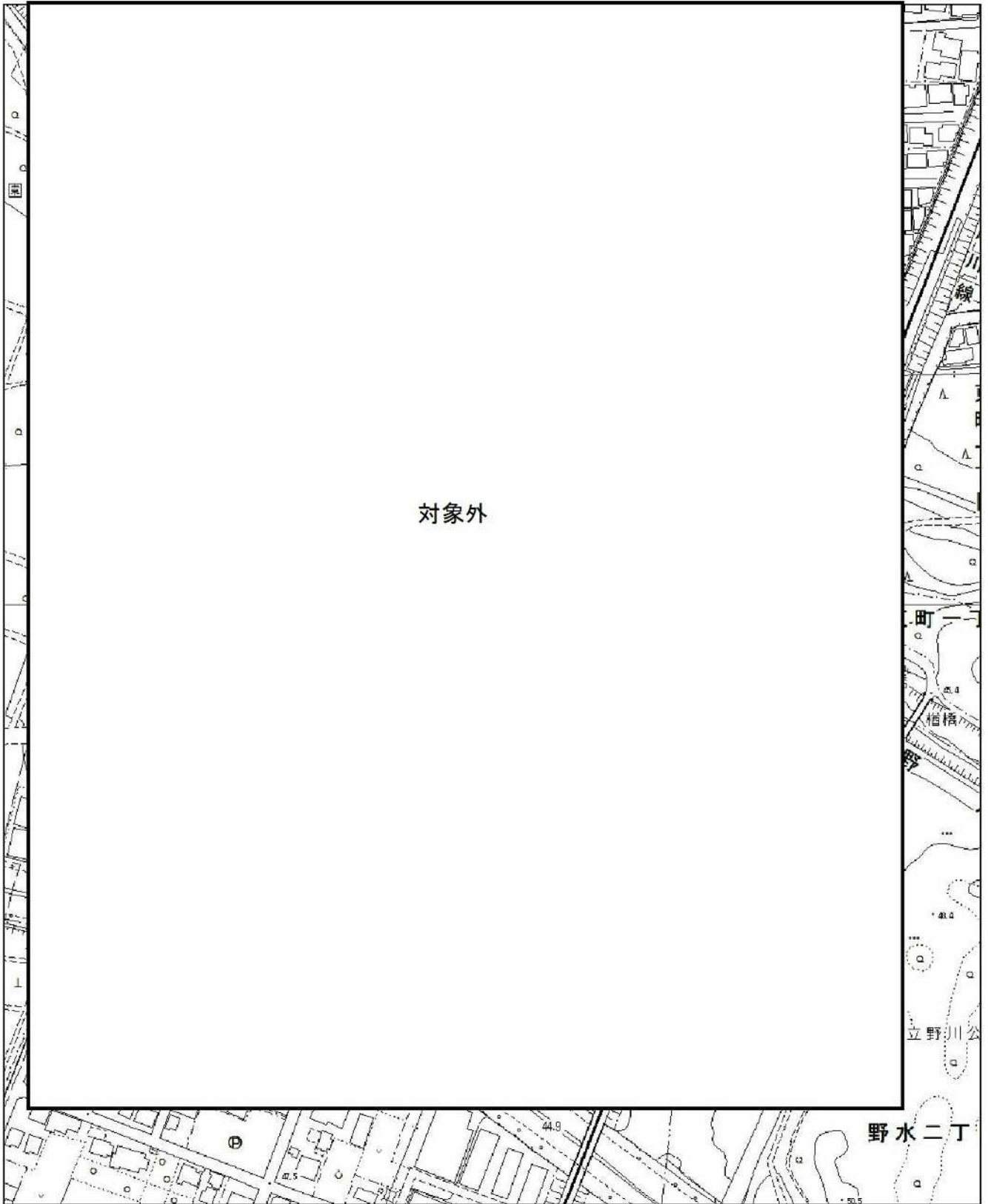


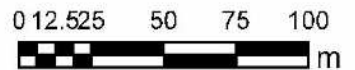
図 注目される種確認位置 (ミクリ) (橋梁案)



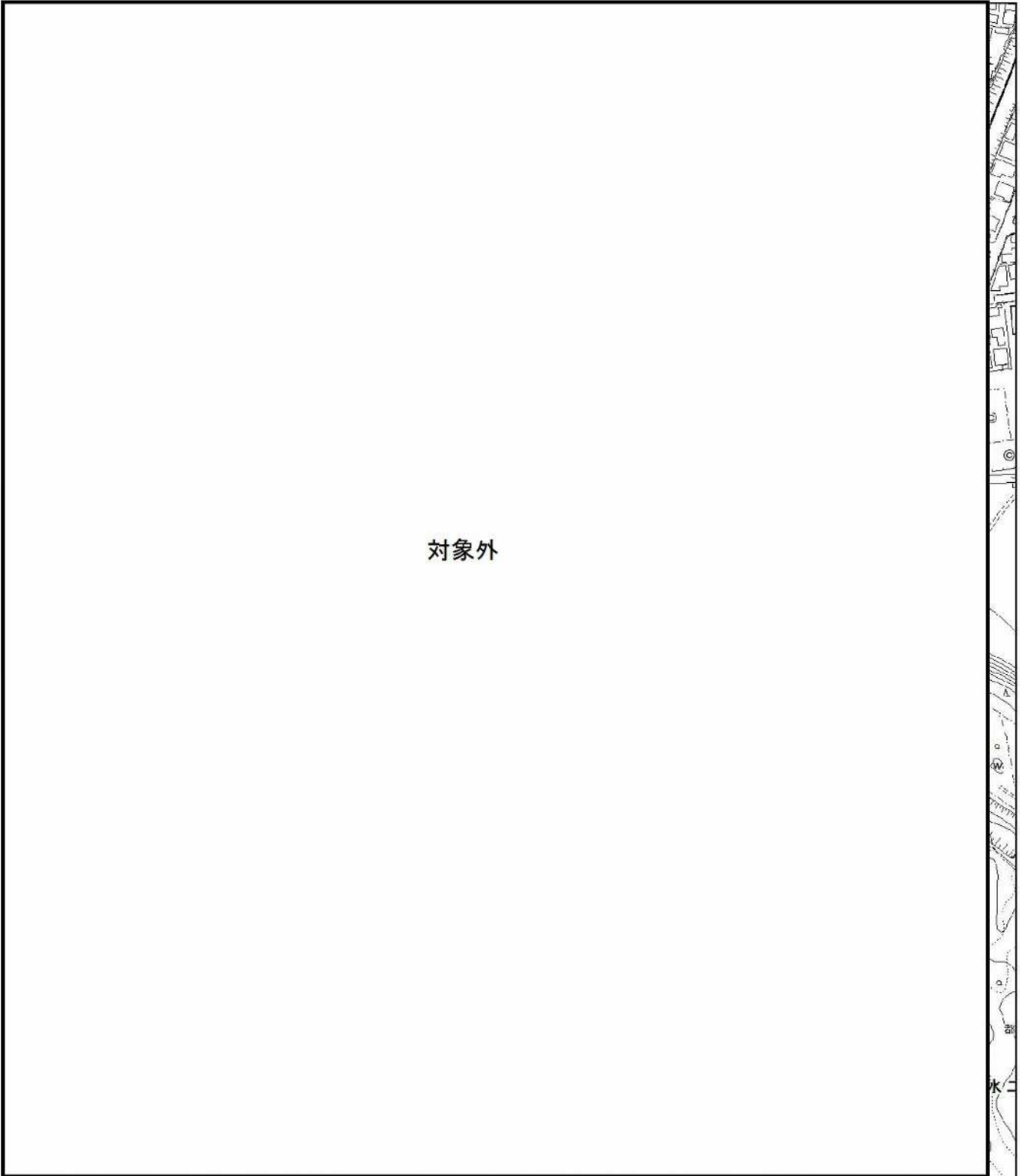
※影響する高木類は健全度を確認した上で移植等を行う。

凡例

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| —— 計画線(橋梁案) | ● 調査 I 2021年度 | ● 調査 VI 2019年度 |
| ■ 施工範囲(橋梁案) | ■ 調査 I 2021年度 | ● 調査 VII 2022年度 |
| □ 植物調査範囲 | ● 調査 II 2015年度 | ■ 調査 VII 2022年度 |
| | ● 調査 III 2016年度 | |
| | ● 調査 IV 2017年度 | |
| | ● 調査 V 2018年度 | |



☒ 注目される種確認位置
(ウキヤガラ) (橋梁案)



対象外



凡例

- 計画線(掘割案)
- 施工範囲(掘割案)
- 動物調査範囲
- 調査Ⅰ 2021年度
- 調査Ⅶ 2022年度

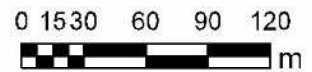


図 注目される種確認位置 (鳥類)
(掘割案)

対象外

凡例

- 計画線(掘割案)
- 施工範囲(掘割案)
- 動物調査範囲
- 調査Ⅰ 2021年度
- 調査Ⅶ 2022年度

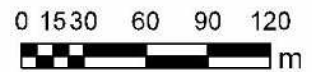
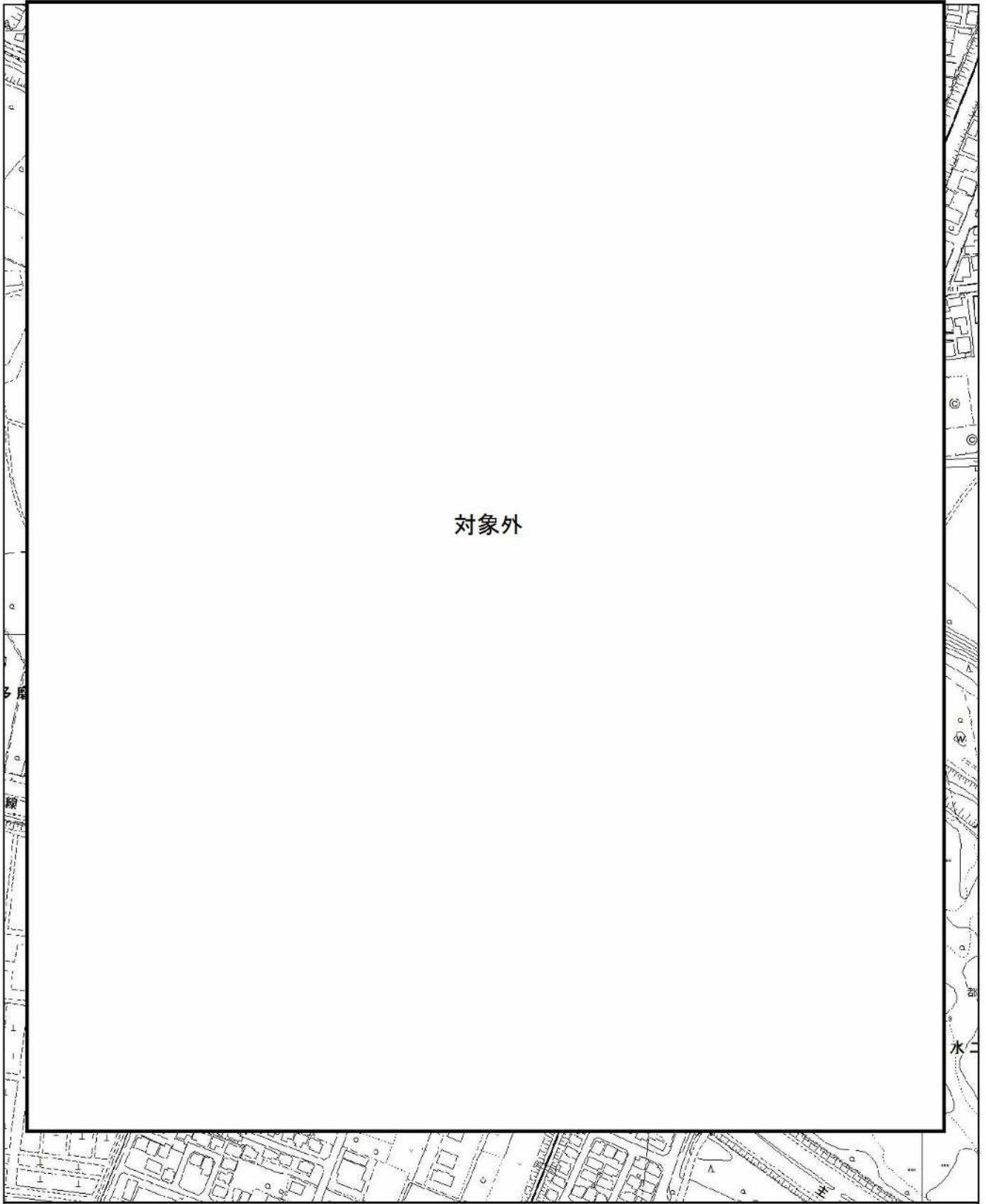


図 注目される種確認位置 (爬虫類)
(掘割案)



凡例

- 計画線(掘割案) ● 調査Ⅰ 2021年度
- 施工範囲(掘割案) ● 調査Ⅶ 2022年度
- 動物調査範囲

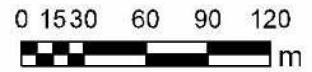
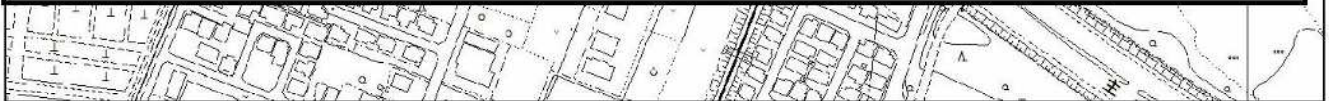


図 注目される種確認位置 (両生類)
(掘割案)


対象外



凡例

—— 計画線(掘割案)

 施工範囲(掘割案)

 動物調査範囲

● 調査Ⅰ 2021年度

● 調査Ⅱ 2015年度

● 調査Ⅲ 2016年度

● 調査Ⅳ 2017年度

● 調査Ⅴ 2018年度

● 調査Ⅵ 2019年度

● 調査Ⅶ 2022年度




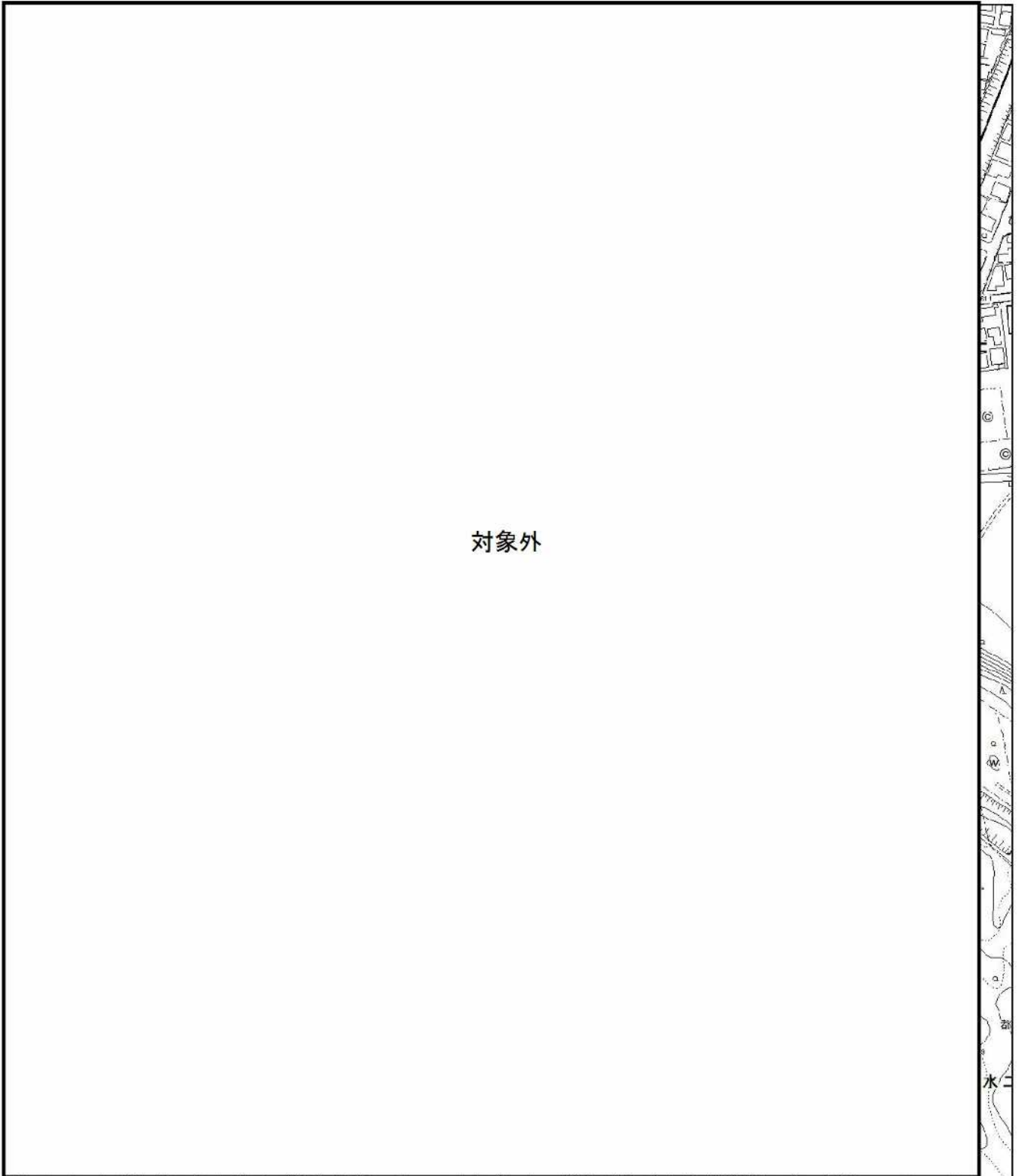
0 15 30 60 90 120
 m

図 注目される種確認位置 (昆虫類)
(掘割案)



対象外

凡例

- 計画線(掘割案)
- 調査Ⅶ 2022年度
- 施工範囲(掘割案)
- 動物調査範囲

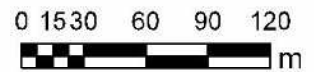
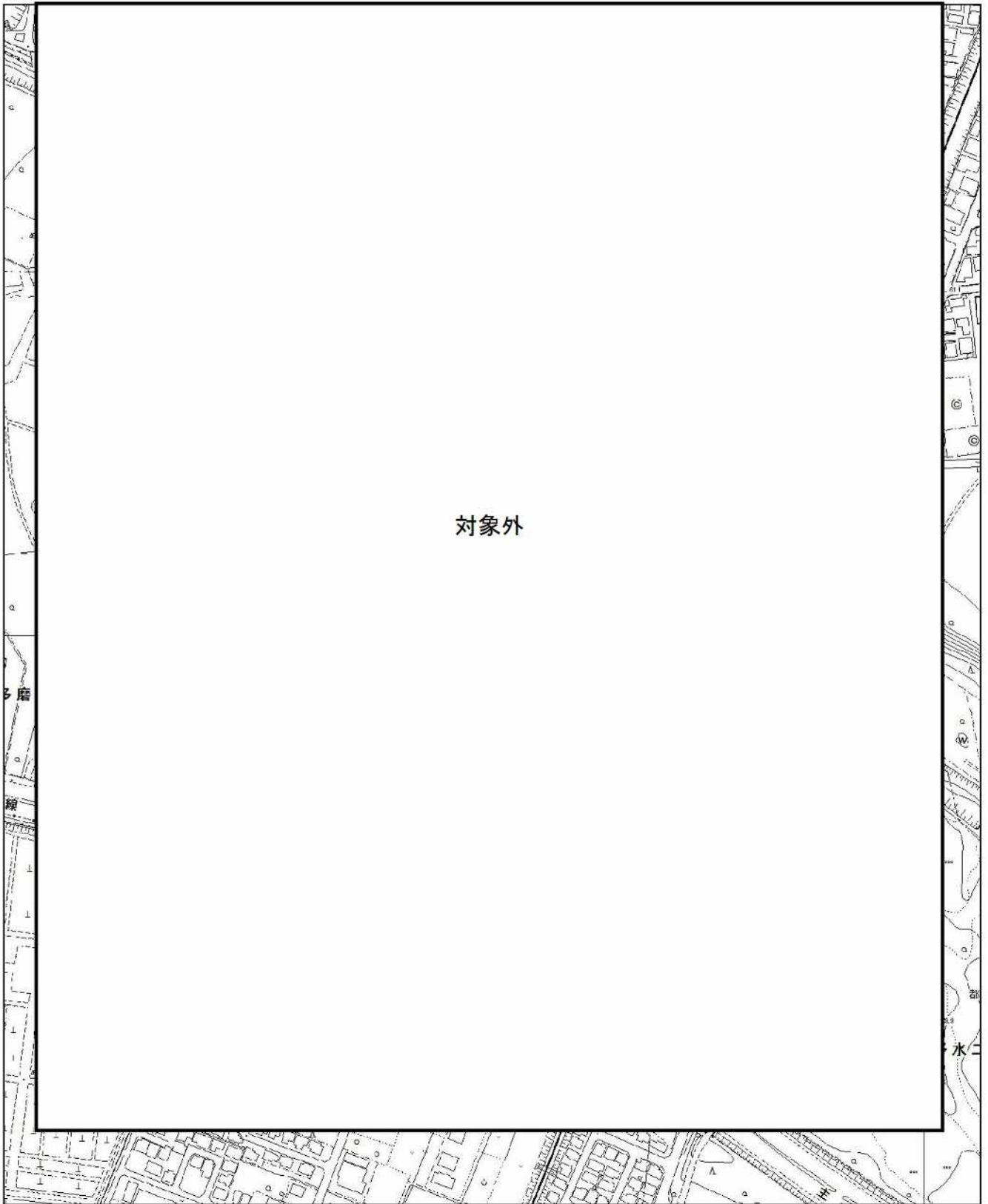


図 注目される種確認位置 (クモ類)
(掘割案)



対象外

凡例

- 計画線(掘割案)
- 調査Ⅶ 2022年度
- 施工範囲(掘割案)
- 動物調査範囲

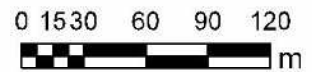


図 注目される種確認位置 (陸産貝類)
(掘割案)

対象外

凡例

- 計画線(掘割案)
- 施工範囲(掘割案)
- 動物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度

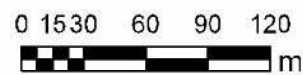


図 注目される種確認位置 (魚類)
(掘割案)

対象外

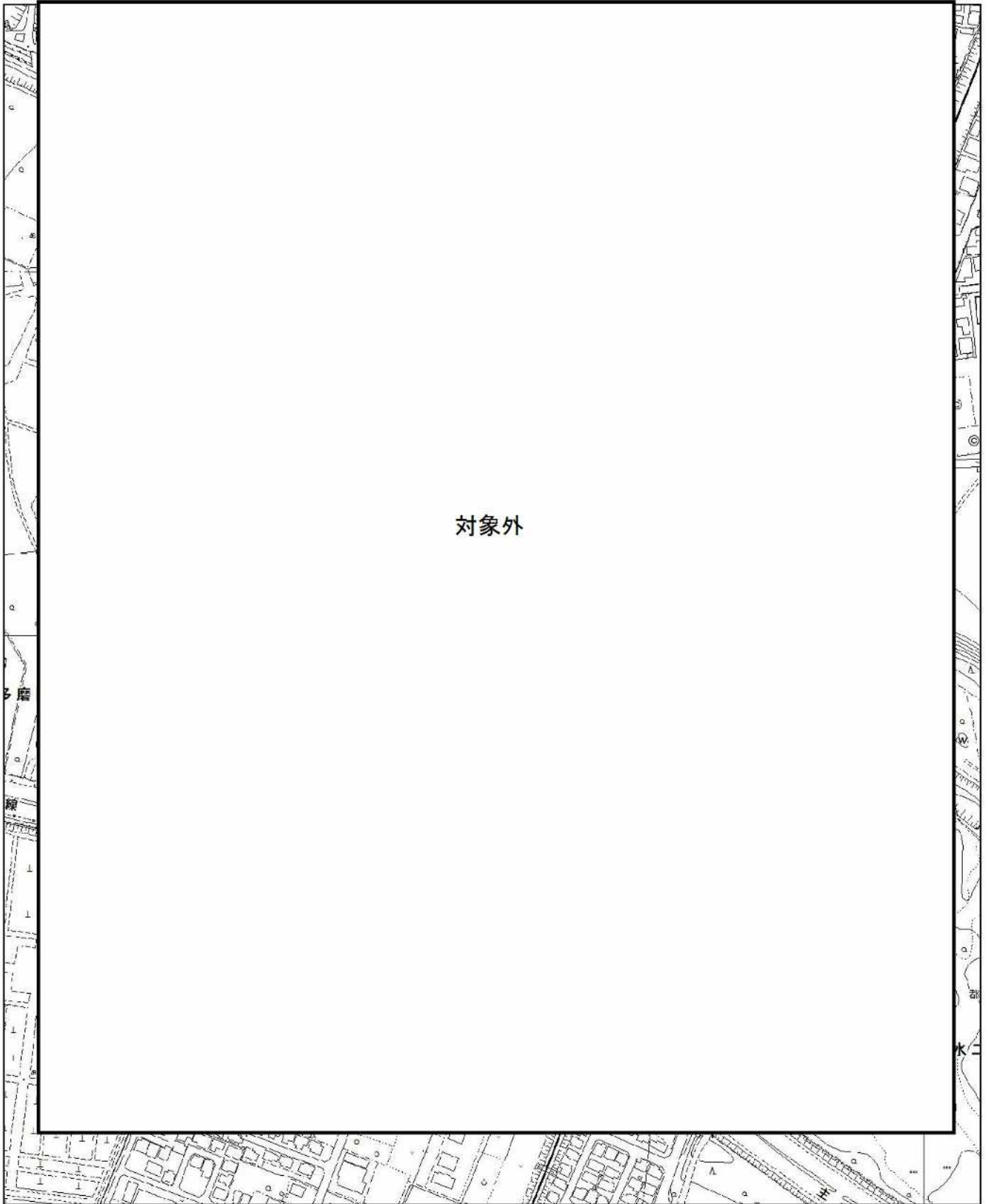
凡例

- | | | | |
|-------------|---|---|------------|
| —— 計画線(掘割案) | ● | ■ | 調査Ⅰ 2021年度 |
| ■ 施工範囲(掘割案) | ● | ■ | 調査Ⅱ 2015年度 |
| ■ 動物調査範囲 | ● | ■ | 調査Ⅲ 2016年度 |
| | ● | ■ | 調査Ⅳ 2017年度 |
| | ● | ■ | 調査Ⅴ 2018年度 |
| | ● | ■ | 調査Ⅵ 2019年度 |



0 15 30 60 90 120
m

図 注目される種確認位置
(シマドジョウ種群) (掘割案)



対象外

凡例

- | | | |
|-------------|---|---------------|
| —— 計画線(掘割案) | ● | 調査 I 2021年度 |
| ■ 施工範囲(掘割案) | ● | 調査 II 2015年度 |
| □ 動物調査範囲 | ● | 調査 III 2016年度 |
| | ● | 調査 IV 2017年度 |
| | ● | 調査 V 2018年度 |
| | ● | 調査 VI 2019年度 |

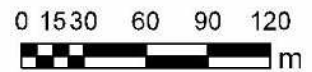
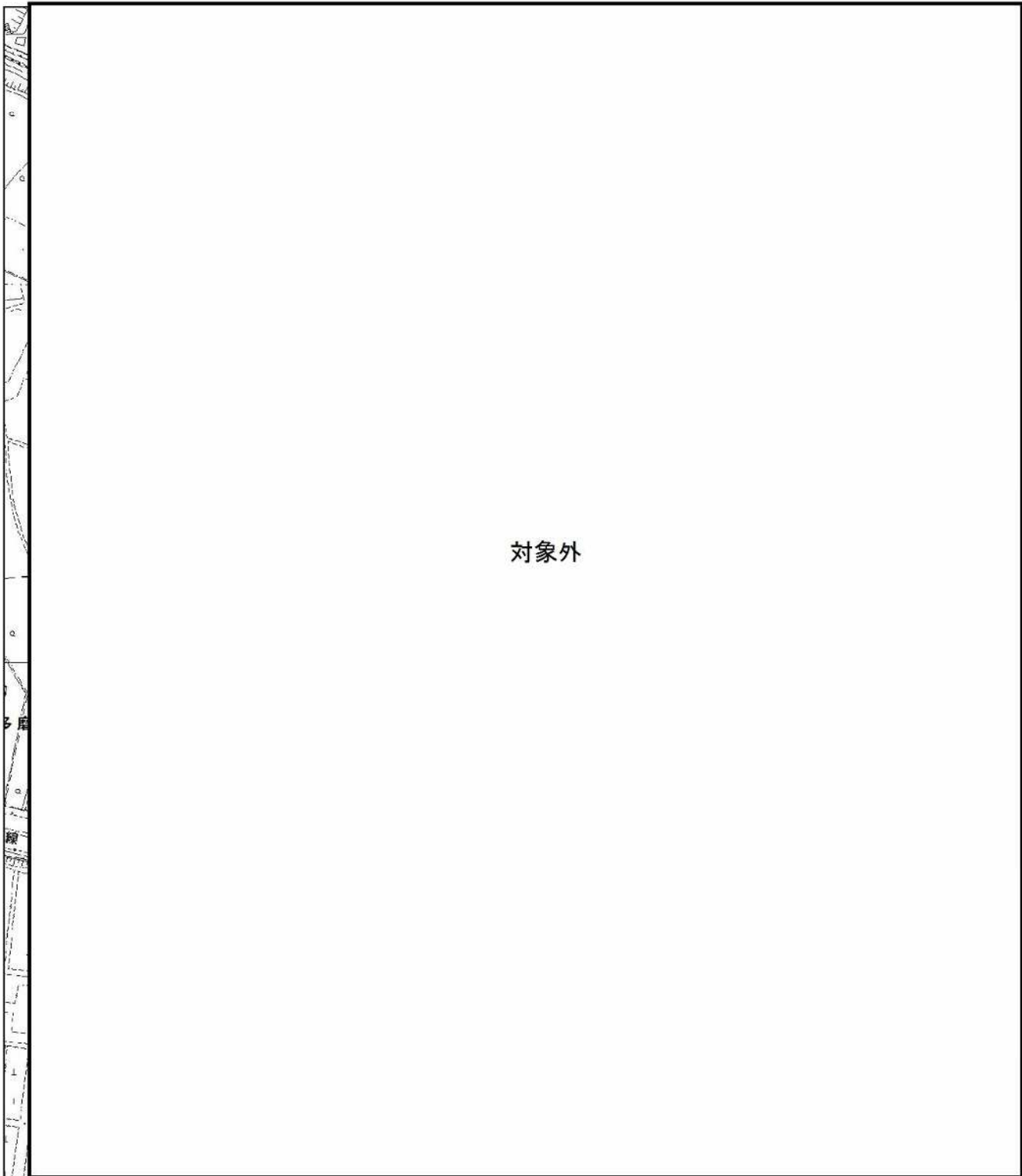


図 注目される種確認位置 (メダカ類) (掘割案)



対象外

凡例

- 計画線(掘割案)
 - 施工範囲(掘割案)
 - 動物調査範囲
- | | | |
|---|--|------------|
| ● | | 調査Ⅰ 2021年度 |
| ● | | 調査Ⅱ 2015年度 |
| ● | | 調査Ⅲ 2016年度 |
| ● | | 調査Ⅳ 2017年度 |
| ● | | 調査Ⅴ 2018年度 |
| ● | | 調査Ⅵ 2019年度 |

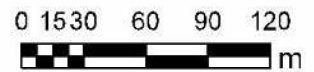


図 注目される種確認位置 (底生動物) (掘割案)

対象外



凡例

- 計画線(掘割案)
- 施工範囲(掘割案)
- 植物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度
- 調査 VII 2022年度
- 調査 VII 2022年度

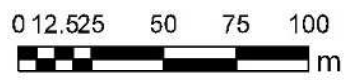
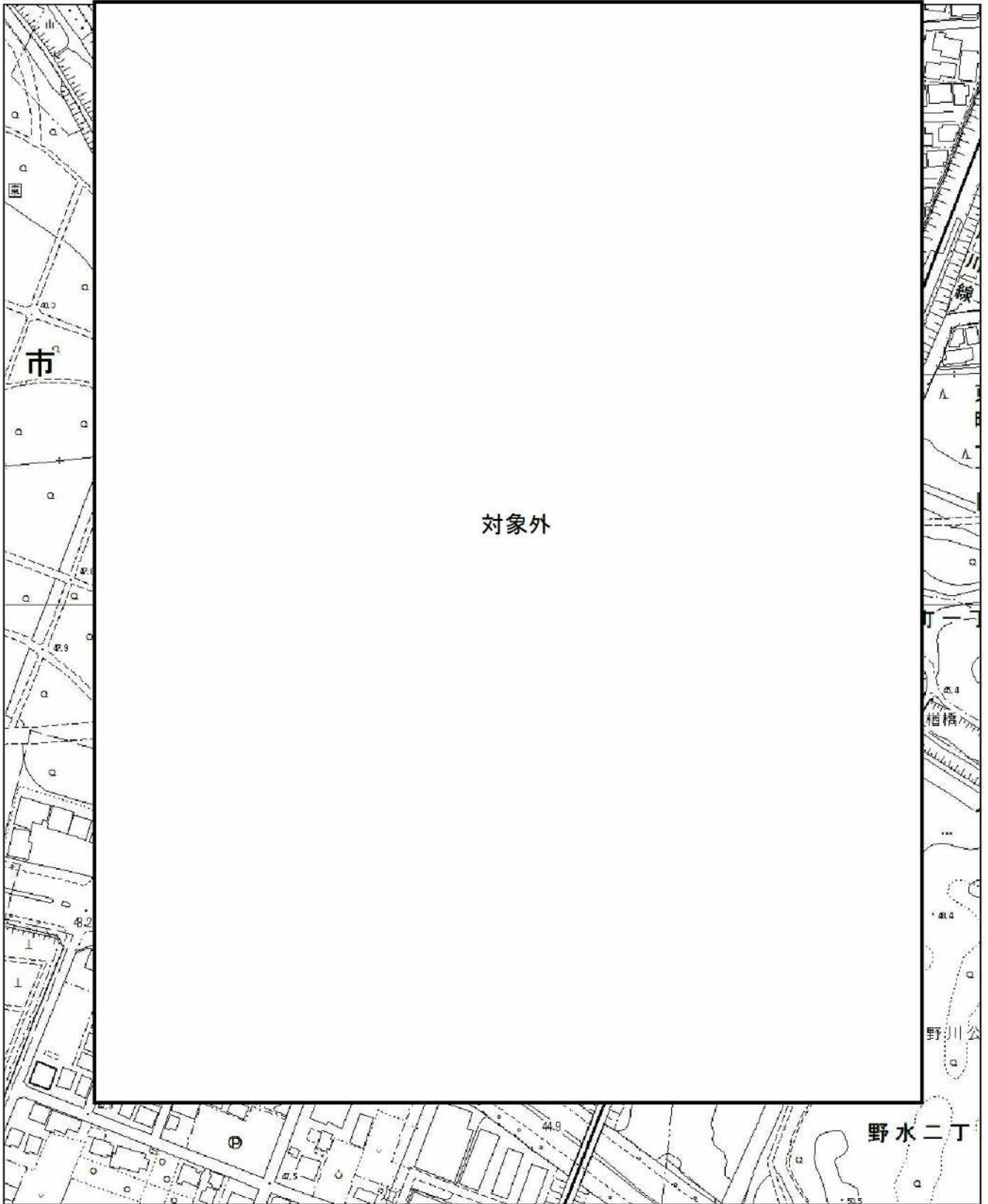


図 注目される種確認位置 (植物)
(掘割案)



対象外

市

橋

野川公

野水二丁

凡例

- 計画線(掘割案)
- 施工範囲(掘割案)
- 植物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度
- 調査 VII 2022年度
- 調査 VII 2022年度

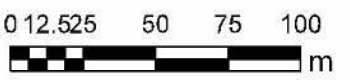
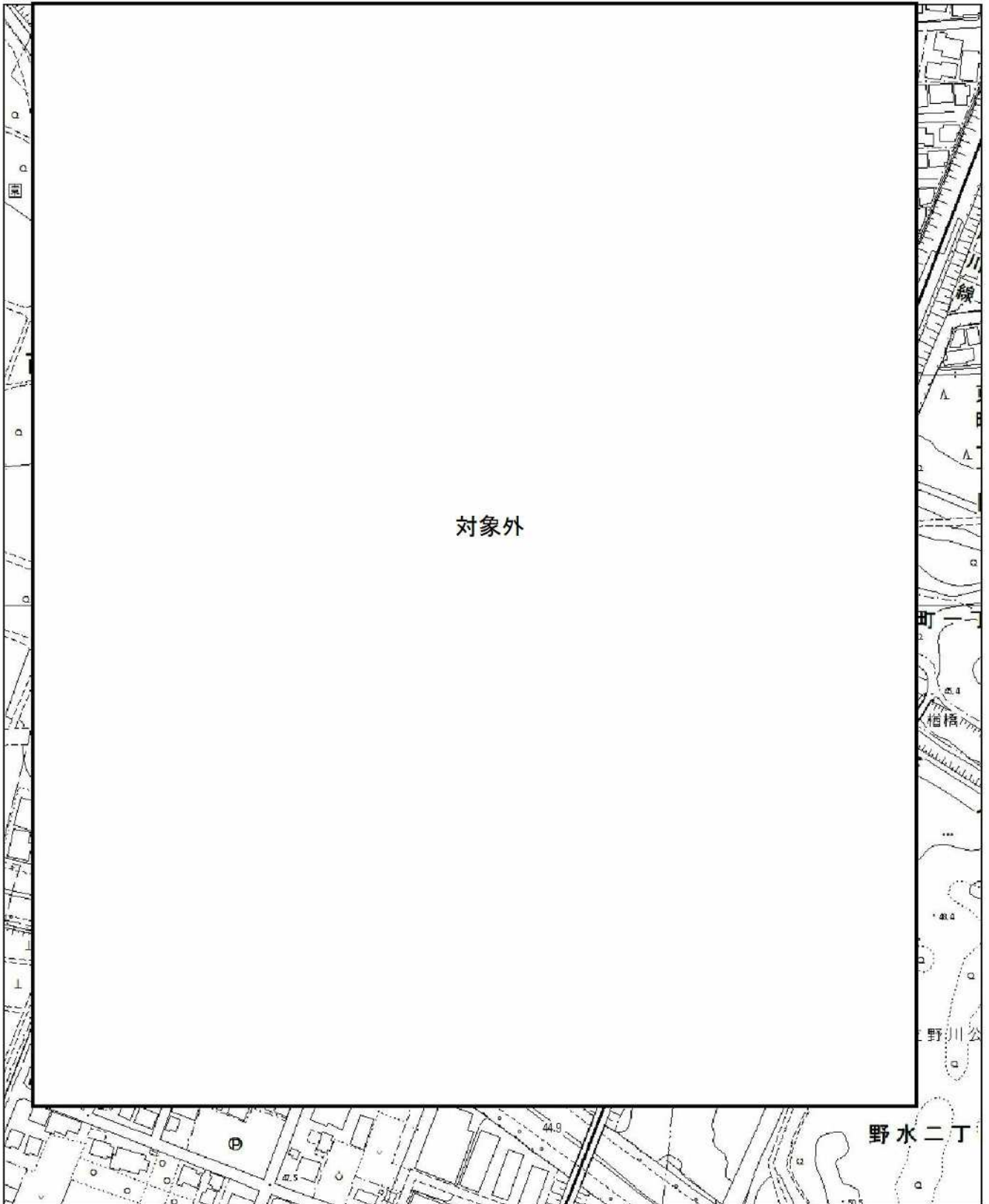


図 注目される種確認位置 (ミクリ) (掘割案)



凡例

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| —— 計画線(掘割案) | ● 調査 I 2021年度 | ● 調査 VI 2019年度 |
| ■ 施工範囲(掘割案) | ■ 調査 I 2021年度 | ● 調査 VII 2022年度 |
| □ 植物調査範囲 | ● 調査 II 2015年度 | ■ 調査 VII 2022年度 |
| | ● 調査 III 2016年度 | |
| | ● 調査 IV 2017年度 | |
| | ● 調査 V 2018年度 | |

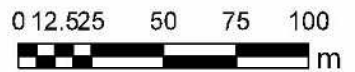


図 注目される種確認位置
(ウキヤガラ) (掘割案)

対象外

凡例

- 計画線(地下案)
- 施工範囲(地下案)
- 動物調査範囲
- 調査Ⅰ 2021年度
- 調査Ⅶ 2022年度

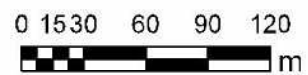


図 注目される種確認位置 (鳥類)
(地下案)

対象外

凡例

- 計画線(地下案)
- 施工範囲(地下案)
- 動物調査範囲
- 調査Ⅰ 2021年度
- 調査Ⅶ 2022年度

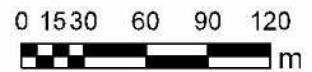
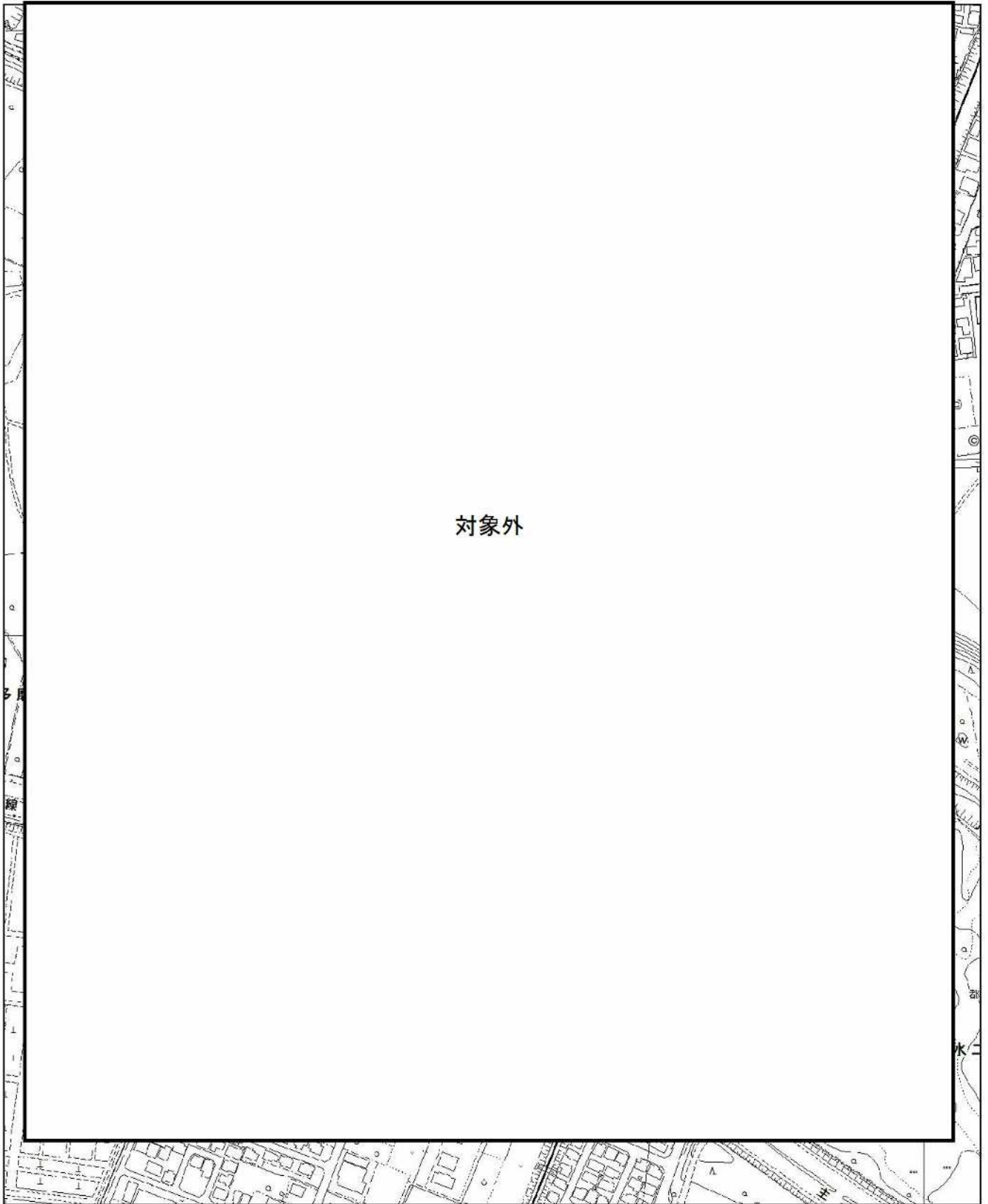


図 注目される種確認位置 (爬虫類)
(地下案)



対象外

凡例

- 計画線(地下案) ● 調査Ⅰ 2021年度
- 施工範囲(地下案) ● 調査Ⅶ 2022年度
- 動物調査範囲

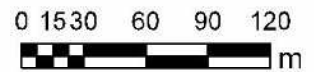
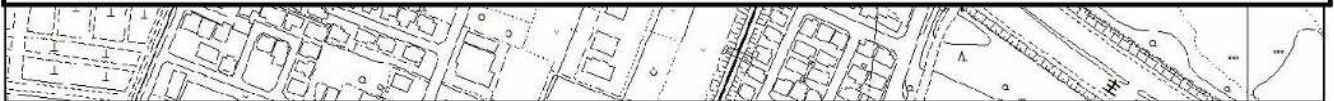


図 注目される種確認位置 (両生類)
(地下案)


対象外



凡例

—— 計画線(地下案)

 施工範囲(地下案)

 動物調査範囲

● 調査Ⅰ 2021年度

● 調査Ⅱ 2015年度

● 調査Ⅲ 2016年度

● 調査Ⅳ 2017年度

● 調査Ⅴ 2018年度

● 調査Ⅵ 2019年度

● 調査Ⅶ 2022年度

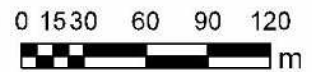
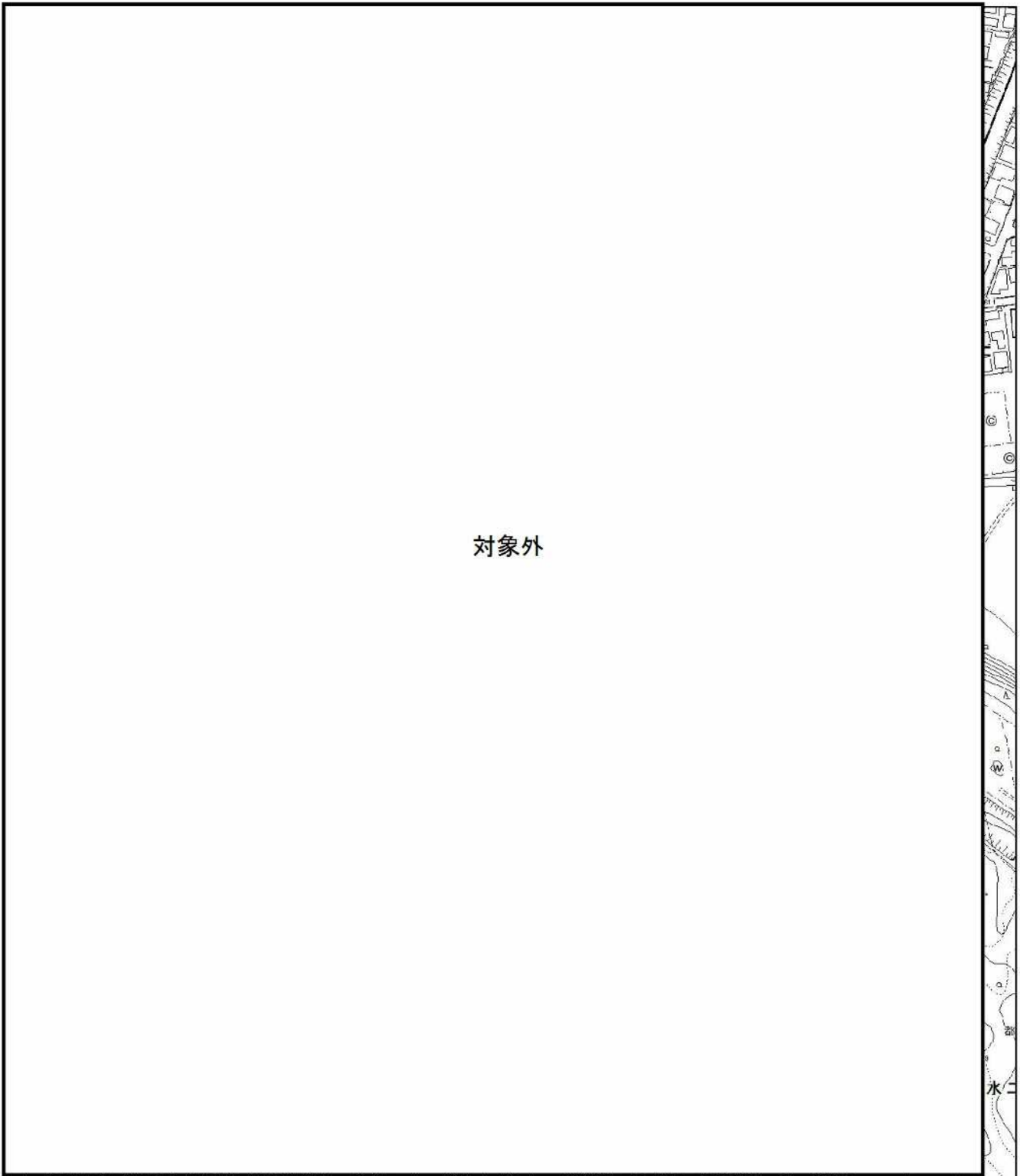


図 注目される種確認位置 (昆虫類)
(地下案)



対象外

凡例

- 計画線(地下案) ● 調査Ⅶ 2022年度
- 施工範囲(地下案)
- 動物調査範囲

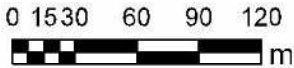
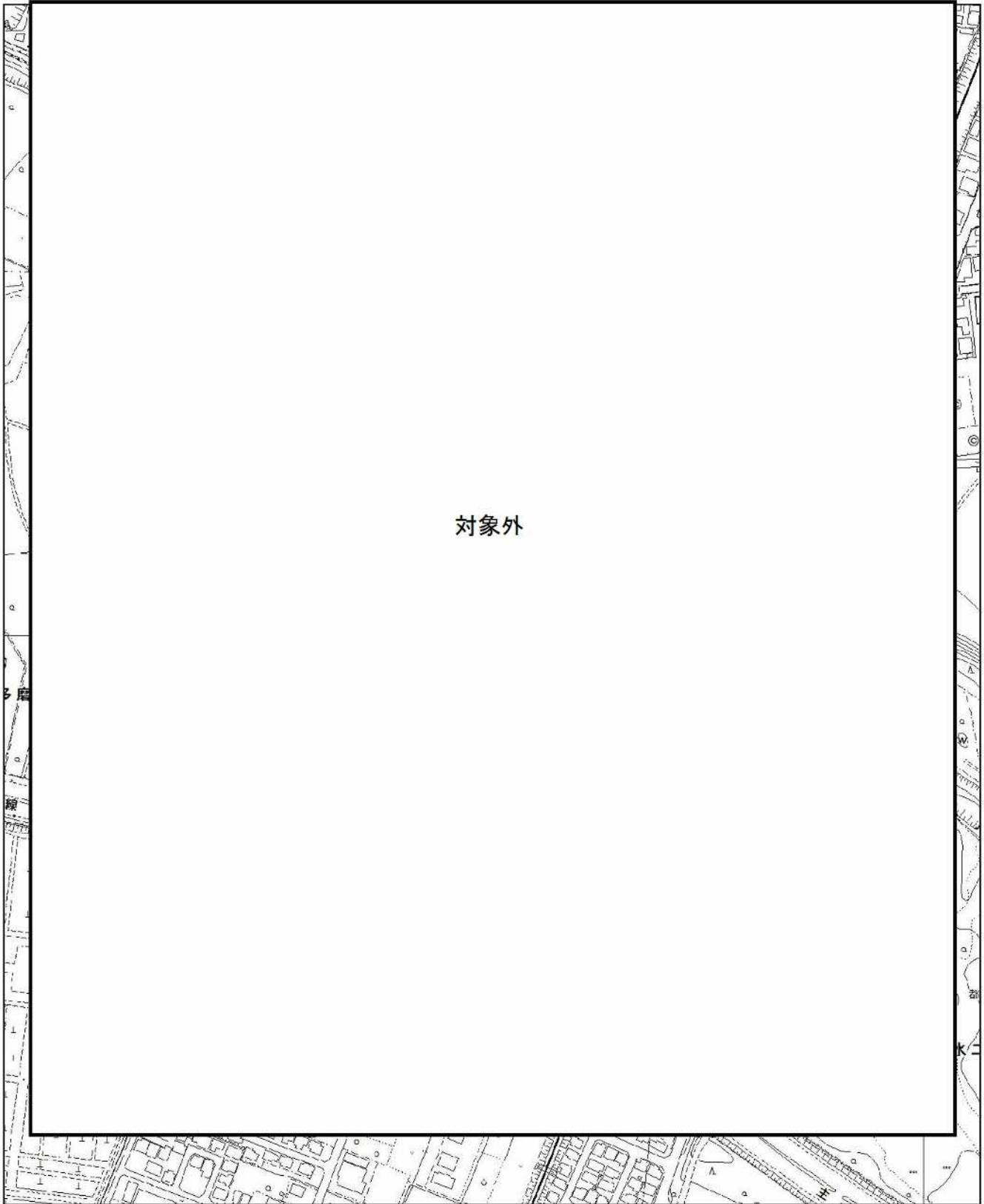


図 注目される種確認位置 (クモ類)
(地下案)



対象外

凡例

- 計画線(地下案) ● 調査Ⅶ 2022年度
- 施工範囲(地下案)
- 動物調査範囲

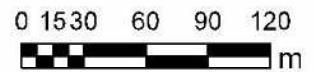


図 注目される種確認位置 (陸産貝類)
(地下案)

対象外

凡例

- 計画線(地下案)
- 施工範囲(地下案)
- 動物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度

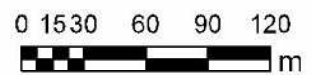
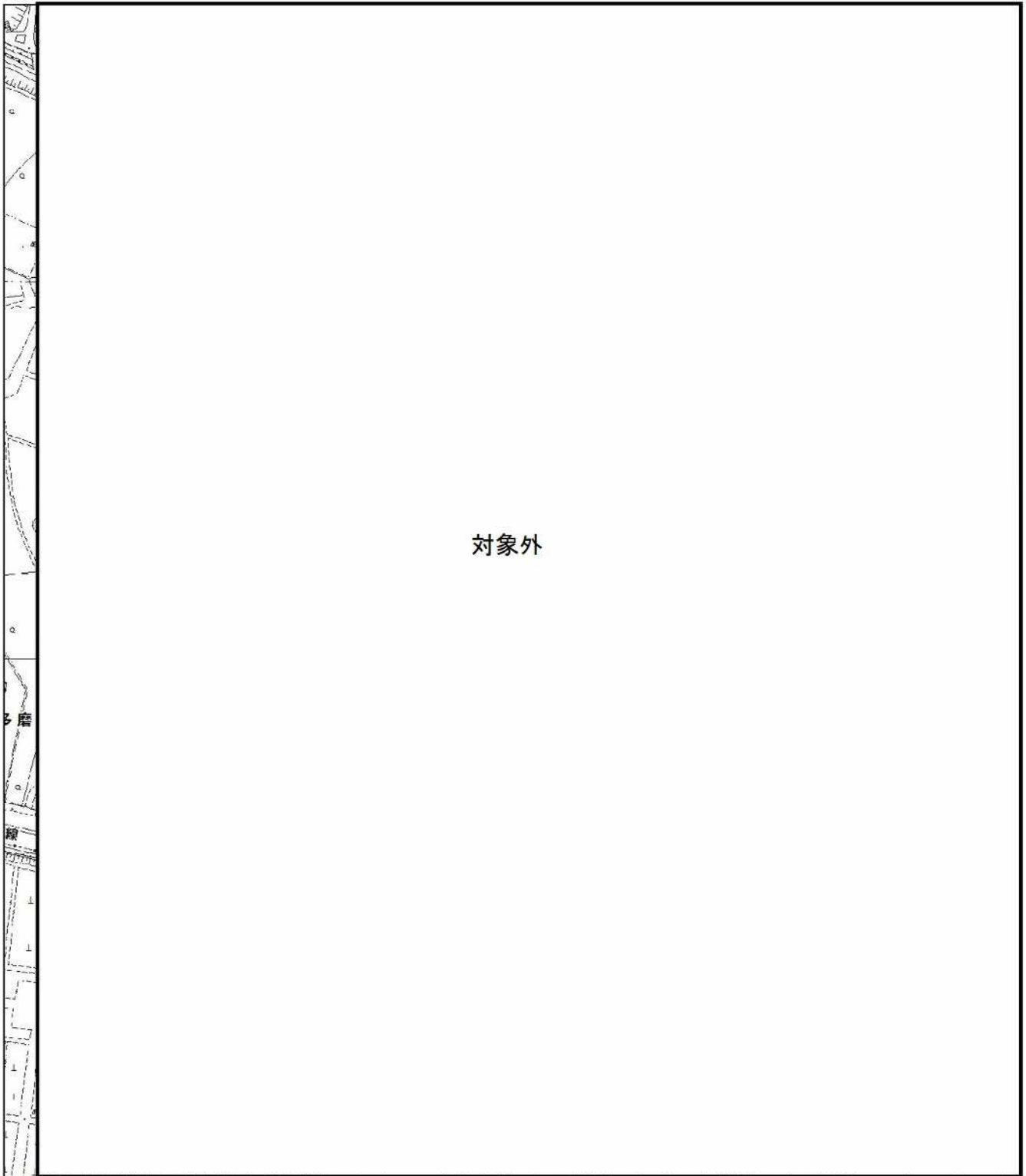


図 注目される種確認位置 (魚類)
(地下案)



対象外

凡例

- | | | | |
|-------------|---|---|------------|
| —— 計画線(地下案) | ● | ■ | 調査Ⅰ 2021年度 |
| ■ 施工範囲(地下案) | ● | ■ | 調査Ⅱ 2015年度 |
| ■ 動物調査範囲 | ● | ■ | 調査Ⅲ 2016年度 |
| | ● | ■ | 調査Ⅳ 2017年度 |
| | ● | ■ | 調査Ⅴ 2018年度 |
| | ● | ■ | 調査Ⅵ 2019年度 |

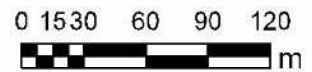
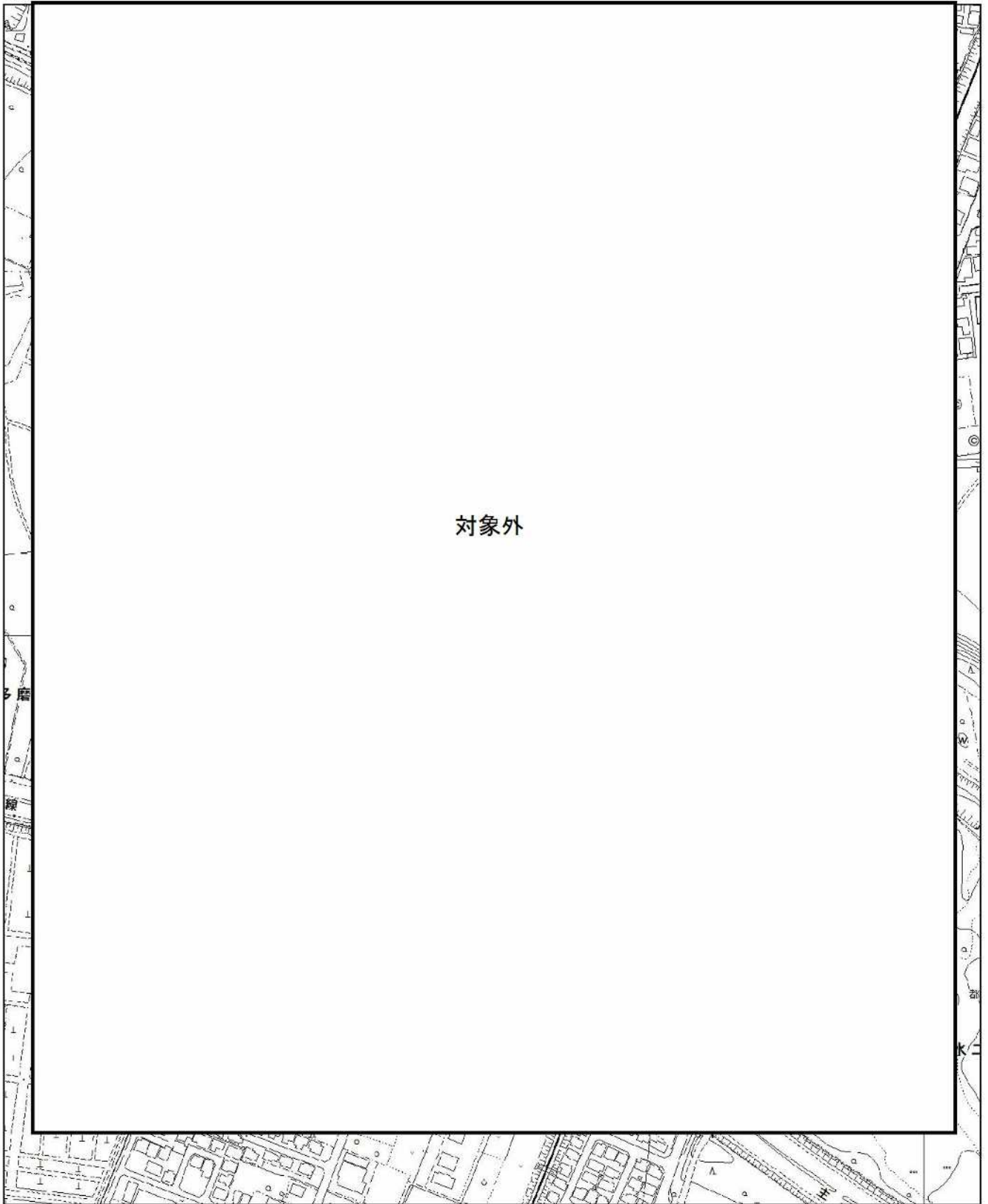


図 注目される種確認位置
(シマドジョウ種群) (地下案)



対象外

凡例

- | | | |
|-------------|---|------------|
| — 計画線(地下案) | ● | 調査Ⅰ 2021年度 |
| ■ 施工範囲(地下案) | ● | 調査Ⅱ 2015年度 |
| □ 動物調査範囲 | ● | 調査Ⅲ 2016年度 |
| | ● | 調査Ⅳ 2017年度 |
| | ● | 調査Ⅴ 2018年度 |
| | ● | 調査Ⅵ 2019年度 |

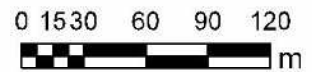
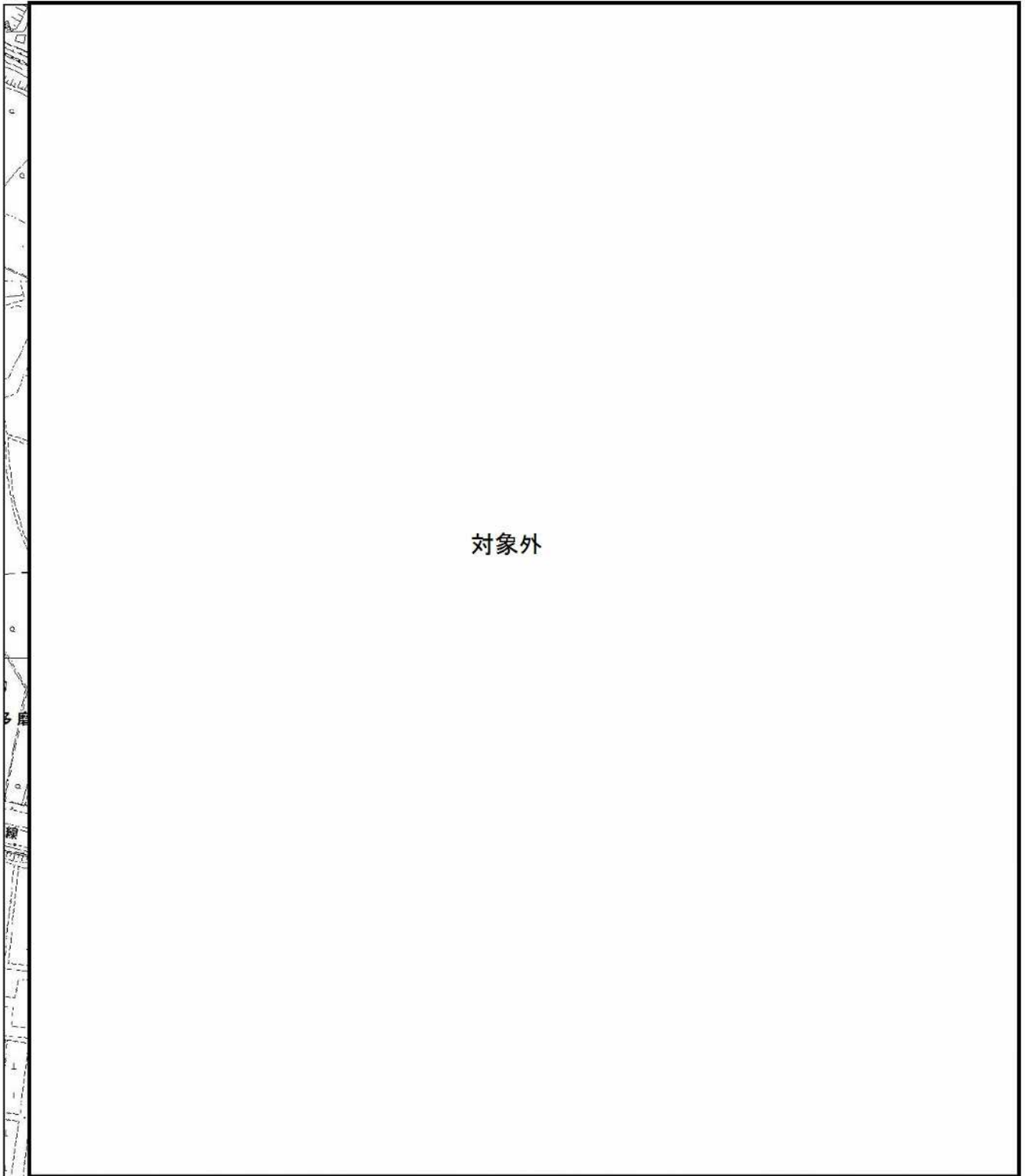


図 注目される種確認位置 (メダカ類) (地下案)



対象外

凡例

- 計画線(地下案)
 - 施工範囲(地下案)
 - 動物調査範囲
- | | | |
|---|--|------------|
| ● | | 調査Ⅰ 2021年度 |
| ● | | 調査Ⅱ 2015年度 |
| ● | | 調査Ⅲ 2016年度 |
| ● | | 調査Ⅳ 2017年度 |
| ● | | 調査Ⅴ 2018年度 |
| ● | | 調査Ⅵ 2019年度 |

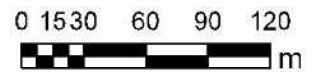


図 注目される種確認位置 (底生動物)
(地下案)

対象外



凡例

- | | | |
|-------------|-----------------|----------------|
| —— 計画線(地下案) | ● 調査 I 2021年度 | ● 調査VI 2019年度 |
| ■ 施工範囲(地下案) | ■ 調査 I 2021年度 | ● 調査VII 2022年度 |
| □ 植物調査範囲 | ● 調査 II 2015年度 | ■ 調査VII 2022年度 |
| | ● 調査 III 2016年度 | |
| | ● 調査 IV 2017年度 | |
| | ● 調査 V 2018年度 | |

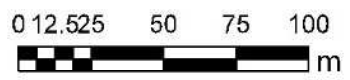
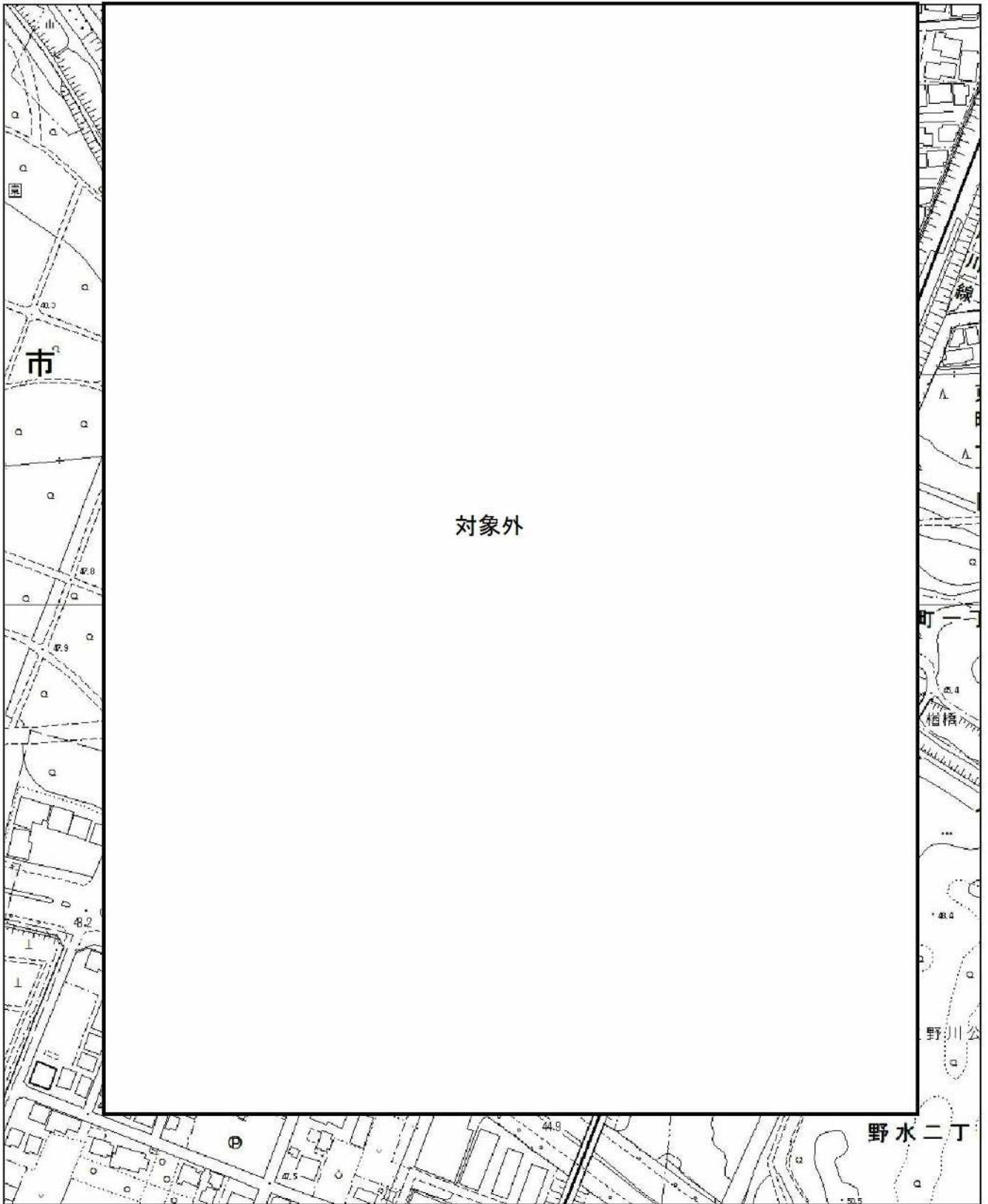


図 注目される種確認位置 (植物)
(地下案)



凡例

- 計画線(地下案)
- 施工範囲(地下案)
- 植物調査範囲
- 調査 I 2021年度
- 調査 II 2015年度
- 調査 III 2016年度
- 調査 IV 2017年度
- 調査 V 2018年度
- 調査 VI 2019年度
- 調査 VII 2022年度
- 調査 VII 2022年度

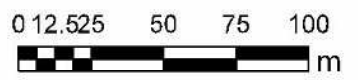
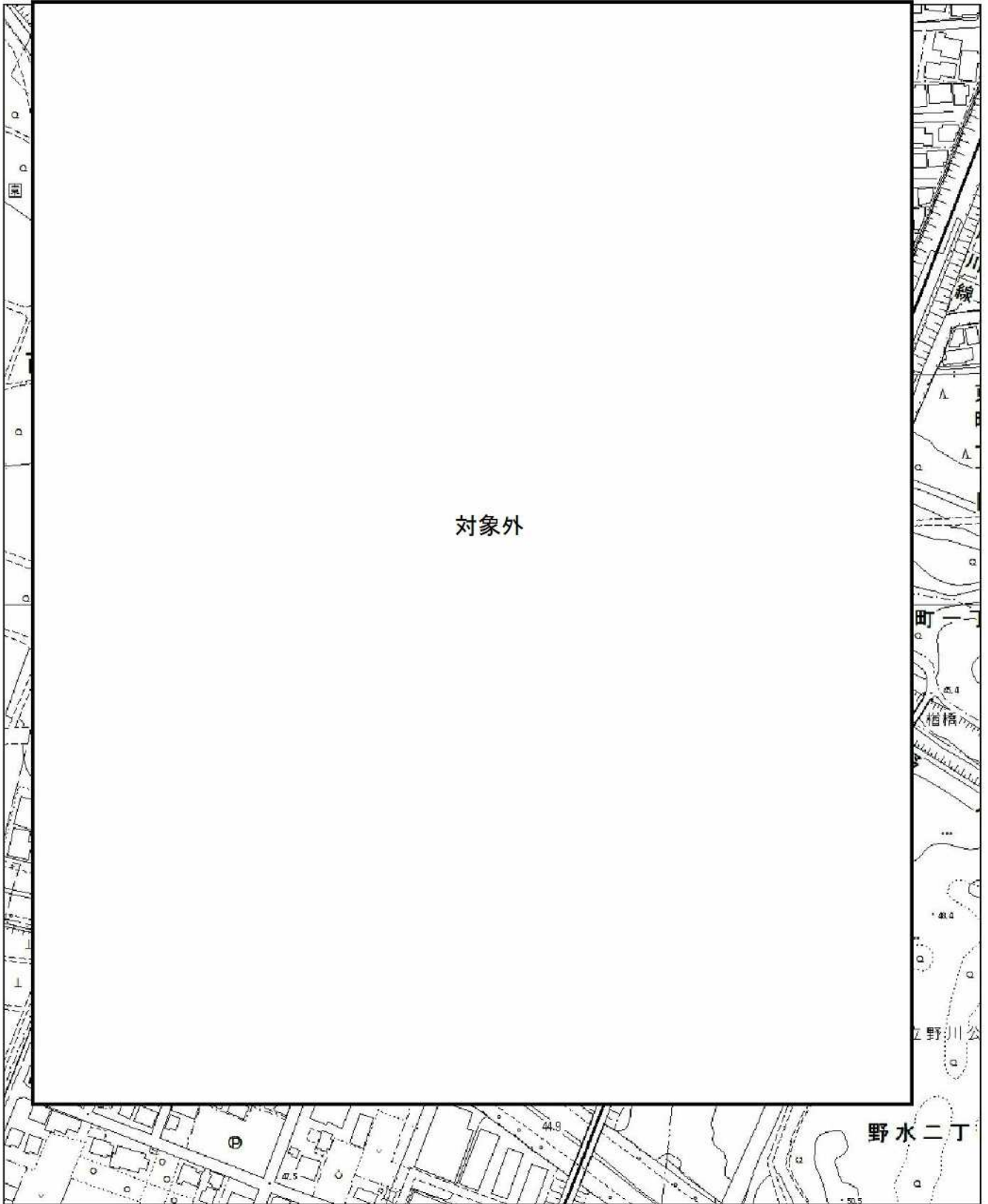


図 注目される種確認位置 (ミクリ) (地下案)



凡例

- | | | |
|-------------|----------------|----------------|
| —— 計画線(地下案) | ● 調査 I 2021年度 | ● 調査VI 2019年度 |
| ■ 施工範囲(地下案) | ■ 調査 I 2021年度 | ● 調査VII 2022年度 |
| □ 植物調査範囲 | ● 調査II 2015年度 | ■ 調査VII 2022年度 |
| | ● 調査III 2016年度 | |
| | ● 調査IV 2017年度 | |
| | ● 調査V 2018年度 | |

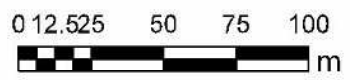


図 注目される種確認位置
(ウキヤガラ) (地下案)

第3章 環境調査計画検討（小金井3・4・1号三鷹国分寺線）

小金井3・4・1号三鷹国分寺線に係る環境調査計画検討として「①地域特性に関する情報の把握」「②環境調査項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定」を実施し、環境調査計画資料（案）として取りまとめた。

なお、本検討は過年度成果（道路概略検討（29北南-小金井3・4・11外1路線）報告書（平成30年3月、株式会社エーシーイー））に示されている計画案を前提としたものであり、事業計画の具体化に伴い必要に応じて見直すことが望ましい。

①地域特性に関する情報の把握

既存の文献・資料等を収集・整理し、対象事業の実施想定区域及びその周辺の自然的状況に係る項目、社会的状況に係る項目について、地域特性に関する情報を把握した。その結果、対象とする項目は本路線が通過する際に該当する関係法令に照らし、現時点で必要と思われる諸手続きを想定したうえで、東京都環境影響評価技術指針（平成26年3月 東京都環境局）の別表1「地域の概況の調査内容」を参考とした。

②環境調査項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定

対象事業の内容と「①地域特性に関する情報の把握」で把握した対象事業実施区域及びその周辺の概況を踏まえ、今後、道路の新設による環境面への影響の程度を広い視点で確認することが望ましいと考えられる項目（環境調査の項目（案））について選定した。なお、項目選定は、本路線が通過する際に該当する関係法令に照らし、東京都環境影響評価技術指針（平成26年3月 東京都環境局）に示されている「環境影響要因と環境影響評価項目との関連表」を参考に実施した。また、選定した項目ごとに、可能な範囲で調査、予測及び評価の手法について検討した。

なお、①、②については、今後、環境面への影響を検討する道路構造により、影響の度合いが異なるため必要に応じて取捨選択することとなる。

次頁以降に「環境調査計画資料（案）」を示す。

別表1 地域の概況の調査内容

区分	調査項目	収集・解析する情報内容(例)
一般項目	人口	人口の動態、人口密度、人口分布等
	産業	工場、事業場の状況等
	交通	道路交通状況(道路網、交通量等)、鉄道等の状況(鉄道路線、駅の位置、利用状況等)その他必要な交通状況
	土地利用	土地利用の状況
	水域利用	河川等の分布及び流域の概況、水路等の状況、水域の利用状況、公共下水道の普及状況(合流式・分流式の区分を含む。)等
	気象	気温、風向、風速、降雨量等
環境項目	関係法令の指定・規制等	関係法令による指定地域、地区、規制の内容等
	環境保全に関する計画等	環境保全に関する各種計画、方針等の概要
	その他	その他地域の状況を特徴付ける事項
	大気汚染	大気汚染の状況
	悪臭	悪臭の状況
	騒音・振動	騒音の状況、振動の状況及び低周波音の状況
	水質汚濁	水質汚濁の状況
	土壌汚染	土壌汚染の状況
	地盤	地盤の概況、地下水位の概況、地盤沈下の状況等
	地形・地質	地形・地質の概況、斜面等の安定性の概況、特異な地形・地質の分布等
	水循環	河川等の形態・水量等の概況、湧水及び地下水の流動状況の概況
	生物・生態系	植物相、動物相、水生生物相、注目種、植生、生態系、緑の量等の概況
	日影	日照・日陰状況の概況、超高層建築物の状況等
	電波障害	放送波の概況、電波障害対策地域の分布、超高層建築物の状況等
風環境	風環境の状況、超高層建築物の状況等	
景観	地域景観	地域景観の特性の概況及び高層建物・景観ポイント等の分布状況の概況
	史跡・文化財	指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の分布状況、江戸期遺構の分布状況等
	自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場の分布、機能、利用状況等の概況、自然との触れ合い活動の場までの利用経路の状況等
	廃棄物	廃棄物の処理状況等の概況
温室効果ガス	エネルギー使用状況の概況、各種目標値等	

資料：東京都環境影響評価技術指針（付解説）、東京都環境影響評価事後調査基準
（平成26年3月 東京都環境局）

別記書式 環境影響要因と環境影響評価の項目との関連表

(対象計画・対象事業の種類)

環境影響評価の項目	区分 環境影響 要因 予測する 事項	工事の施行中				工事の完了後			
大気汚染									
悪臭									
騒音・振動									
水質汚濁									
土壌汚染									
地盤									
地形・地質									
水循環									
生物・生態系									
日影									
電波障害									
風環境									
景観									
史跡・文化財									
自然との触れ合い活動の場									
廃棄物									
温室効果ガス									

資料：東京都環境影響評価技術指針（付解説）、東京都環境影響評価事後調査基準
（平成 26 年 3 月 東京都環境局）

環境調査計画資料（案）

－小金井3・4・1号三鷹国分寺線－

（小金井市東町五丁目～小金井市貫井南町二丁目間）

[目 次]

第 1 編 対象計画の案の名称及び種類	1
第 2 編 対象計画の案の内容の概要	1
第 3 編 対象計画の案の目的及び内容	2
3-1 対象計画の案の目的	2
3-2 対象計画の案の内容	3
第 4 編 対象計画の案の策定に至った経過	4
第 5 編 地域の概況	5
5-1 一般項目	5
5-1-1 人口	6
5-1-2 産業	7
5-1-3 交通	8
5-1-4 土地利用	13
5-1-5 水域利用	22
5-1-6 気象	25
5-1-7 関係法令の指定・規制等	27
5-1-8 環境保全に関する計画等	29
5-2 環境項目	35
5-2-1 大気汚染	37
5-2-2 悪臭	42
5-2-3 騒音・振動	43
5-2-4 水質汚濁	47
5-2-5 土壌汚染	51
5-2-6 地盤	51
5-2-7 地形・地質	53
5-2-8 水循環	55
5-2-9 生物・生態系	57
5-2-10 日影	64
5-2-11 電波障害	64
5-2-12 風環境	66
5-2-13 景観	66
5-2-14 史跡・文化財	68
5-2-15 自然との触れ合い活動の場	72
5-2-16 廃棄物	74

5-2-17 温室効果ガス	75
第6編 環境調査の項目(案)の選定	77
6-1 選定した項目及びその理由	77
第7編 調査等の手法	80
7-1 調査等の概要	80
7-2 項目別の調査手法	82
7-2-1 地盤	82
7-2-2 水循環	84
7-2-3 生物・生態系	87
7-2-4 景観	94
7-2-5 史跡・文化財	96
「環境調査計画資料(案)」を作成するに当たって参考とした資料の目録	97

第1編 対象計画の案の名称及び種類

名 称：小金井都市計画道路 3・4・1 号三鷹国分寺線 建設事業

種 類：道路の新設

第2編 対象計画の案の内容の概要

本事業は、「小金井都市計画道路 3・4・1 号三鷹国分寺線」のうち、小金井市東町五丁目を起点とし、小金井市貫井南町二丁目を終点とする延長約 2.2 km の区間（以下「計画道路」という。）において、幅員 16m 往復 2 車線の道路を整備するものである。

対象計画の案の概要を表 2-1 に示す。

表 2-1 対象計画の案の概要

項 目	内 容
都市計画道路名	小金井都市計画道路 3・4・1 号三鷹国分寺線
延長及び区間	延長：約 2.2 km（都市計画上の延長：2,050m） 起点：小金井市東町五丁目（連雀通り交差点） 終点：小金井市貫井南町二丁目（新小金井街道交差点）
通過地域	小金井市
道路規格	第 4 種 第 2 級※
車線数	本線 2 車線
道路幅員	16m（標準）
設計速度	60 km/時
計画（現況）交通量※	10,500 台/日
主要交通との交差	・ 小金井 3・4・11 号、都）247 号府中小金井線 ・ 都）134 号恋ヶ窪新田三鷹線 ・ 小金井 3・4・12 号 ・ 小金井 3・4・14 号、主）15 号府中清瀬線 ・ 小金井 3・4・7 号、都）248 号府中小平線

注 1) 第 4 種 2 級とは「道路構造令(昭和 45 年 10 月 25 日 政令第 320 号)」で定められた道路の区分である。

注 2) ここでは、計画交通量について過年度設計成果の台数を示した。

(資料:道路概略設計(29 北南-小金井 3・4・11 外 1 路線)報告書 平成 30 年 3 月(株式会社 エーシーイー))

第3編 対象計画の案の目的及び内容

3-1 対象計画の案の目的

東京都と特別区及び26市2町は、平成28年3月に「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」を策定し、道路整備の「基本目標」として、目標①：「活力（都市活力の強化）」、目標②：「防災（都市防災の強化）」、目標③：「暮らし（安全で快適な都市空間の創出）」、目標④「環境（都市環境の向上）」の4つを掲げ、おおむね10年間（平成28年度～37年度）で優先的に整備すべき路線を定め、計画的かつ効率的に道路ネットワークを形成し、ゆとりある生活と経済活力が両立した都市の実現を目指しています。

また、東京都は、令和3年3月に『「未来の東京」戦略』を策定し、目指す2040年代の東京の姿を提示した20のビジョンの実現に向け、2030年に向けて取り組むべき「戦略」の1つである「都市の機能をさらに高める戦略」とその実行に向けた推進プロジェクトにおいて、都市の機能強化や経済活動の活性化のために、交通渋滞の解消に寄与する道路ネットワークの整備や通学路などに利用される狭い生活道路の抜け道としての利用抑制を図るため地域幹線道路の整備等を推進することとしています。

一方、小金井市は、令和4年8月に「小金井市都市計画マスタープラン」を改訂し、都市計画道路の整備方針として「東京都及び関係市と連携して、地域のまちづくりの特性、整備済み・着手路線との連続性、道路ネットワークの形成及び国分寺崖線、野川、玉川上水及び都市公園など自然環境・景観などの保全を勘案して、必要な道路整備を進めます。」を掲げ、小金井3・4・1号線（三鷹国分寺線）を、主に地域の交通を処理する広域幹線道路以外の都市計画道路である「幹線道路」に位置付け、「円滑に地域交通を処理するとともに、延焼遮断帯の形成、避難場所へのアクセス性向上など地域の防災性の向上及び通過交通のない安全で暮らしやすい生活空間形成の効果が期待されることから、未完成区間は、必要な道路整備を計画的に推進します。なお、東京都が事業を行う路線は、丁寧な対応を東京都に要望します。」とし、円滑に移動できる道路網の整備と人にやさしい交通環境の整備及び総合交通体系の構築などを進め、人・モノの円滑な移動を支える持続可能なまちを目指すこととしています。

3-2 対象計画の案の内容

対象計画の予定位置は、小金井市東町五丁目（連雀通り交差点）を起点とし、小金井市貫井南町二丁目（新小金井街道交差点）を終点とする延長約 2.2 kmの区間であり、東西方向の道路です。

計画道路の幅員は、既定都市計画幅員 16m を標準とし、往復 2 車線で車道 9m の両側に歩行者、自転車の通行空間及び植樹帯を配置した、平面構造を基本に整備します。

また、国分寺崖線及び野川付近などについては、関係法令に基づいた対応を図るとともに、沿道や地域の生活及び自然環境に配慮した道路構造を検討します。

第4編 対象計画の案の策定に至った経過

小金井都市計画道路 3・4・1 号三鷹国分寺線の都市計画等の経過は、以下のとおりです。

- ・昭和 37 年 7 月 : 「小金井都市計画道路 3・4・1 号三鷹国分寺線」として都市計画決定
- ・平成 24 年 3 月 : 「小金井市都市計画マスタープラン（改定）」において、東京都に対して整備推進を要望するなど、道路整備を計画的に進める道路として位置付け
- ・平成 28 年 3 月 : 都と特別区及び 26 市 2 町が連携・協働で検討を進め「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）を策定し、優先的に整備すべき路線として位置付け
- ・令和 4 年 8 月 : 「小金井市都市計画マスタープラン（改定）」において、道路整備を計画的に推進する道路として位置付け

第5編 地域の概況

5-1 一般項目

本事業に係る地域の概況（一般項目）の要約は、表 5-1-1 に示すとおりである。

表 5-1-1 地域の概況（一般項目）

項目	地域の概況
人口	令和 4 年 1 月 1 日現在の小金井市の人口は 124,617 人、世帯数は 62,328 世帯となっており、人口、世帯数は緩やかな増加傾向にある。
産業	小金井市における産業別の事業所数及び従業者数の状況は、卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業などの第三次産業が多くなっており、第一次産業（農業・林業・漁業）がほとんど見られない。
交通	計画道路周辺の主な道路としては、府中小金井線、府中清瀬線（小金井街道）、府中小平線（新小金井街道）、恋ヶ窪新田三鷹線（連雀通り）、新宿国立線（東八道路）等がある。 平成 27 年度の平日 12 時間交通量の状況は、計画道路の起点側（東側）である恋ヶ窪新田三鷹線（小金井市東町）で 7,273 台、終点側（西側）と交差する府中小平線（府中市浅間町）で 10,971 台となっている。 また、鉄道路線としては JR 中央線及び西武多摩川線があり、京王バス等の路線バスやコミュニティバスも運行している。
土地利用	小金井市の地目別土地利用面積の割合は宅地が最も高くなっている。計画道路は主として住宅地を通過するが、一部緑地等を通過する箇所も存在している。 また、計画道路は大部分が第 1 種低層住居専用地域を通過している。 計画道路周辺の公共施設等の状況については、保育所や老人福祉施設等の社会福祉施設が複数分布している。
水域利用	計画道路の周辺には武蔵野段丘と立川段丘を分ける国分寺崖線があり、崖線に沿って野川が流れている。計画道路は野川と並行し、終点側（西側）で横断する。 また、計画道路周辺には「東京の名湧水 57 選」に選定された「貫井神社」、「滄浪泉園」、「はげの森美術館」が存在するほか、多くの井戸が存在する。
気象	計画道路から最寄りの気象観測所である府中観測所の令和 3 年の年間降水量は 1,788.0mm、年平均気温は 15.9℃となっている。また、年平均風速は 1.6m/s であり、風向は北北東が最多となっている。
関係法令の指定・規制等	本事業に係る主な法令は、「環境基本法」、「道路法」、「都市計画法」、「文化財保護法」、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」等である。
環境保全に関する計画等	東京都では、「東京都長期ビジョン」、「東京都景観計画」、「東京地域公害防止計画」、「未来の東京」戦略 version up 2022」等を策定している。 また、小金井市では、「小金井市都市計画マスタープラン」、「小金井しみどりの基本計画」等を策定している。

5-1-1 人口

小金井市における最近5年間の人口及び世帯数は、表 5-1-2 に示すとおりである。

令和4年1月1日現在の人口は124,617人、世帯数は62,328戸となっており、人口、世帯数は緩やかな増加傾向にある。

表 5-1-2 小金井市の人口・世帯数

市名	区分	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年
小金井市	人口(人)	120,268	121,443	122,306	123,828	124,617
	世帯数(戸)	59,548	60,367	61,070	61,909	62,328

注) 各年1月1日現在。

資料: 「住民基本台帳による東京都の世帯と人口(平成30年~令和4年)」

(東京都総務局ホームページ、令和4年4月1日時点)

5-1-2 産業

小金井市における産業別の事業所数及び従業者数の推移は、表 5-1-3 に示すとおりである。小金井市では、卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業などの第三次産業が多くなっており、第一次産業（農業・林業・漁業）がほとんど見られない。

表 5-1-3 産業別の事業所数及び従業者数の推移

産業大分類	事業所数			従業者数(人)		
	平成 24 年	平成 26 年	平成 28 年	平成 24 年	平成 26 年	平成 28 年
総数	2,845	3,016	2,905	28,232	29,858	29,989
農業、林業、漁業	2	2	2	16	20	15
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-	-	-
建設業	202	189	180	1,357	1,201	1,326
製造業	85	84	71	1,056	823	809
電機・ガス・熱供給・水道業	1	2	1	16	30	35
情報通信業	54	52	52	512	557	412
運輸業、郵便業	28	29	28	955	995	918
卸売業、小売業	689	682	667	6,403	6,302	6,089
金融業、保険業	38	34	36	489	512	537
不動産業、物品賃貸業	292	320	283	945	1,010	934
学術研究、専門・技術サービス業	160	169	169	1,104	1,160	1,279
宿泊業、飲食サービス業	408	441	439	3,505	3,744	3,894
生活関連サービス業、娯楽業	288	305	301	1,450	1,453	1,550
教育、学習支援業	137	178	153	4,786	5,256	4,656
医療、福祉	319	393	396	4,706	5,684	6,130
複合サービス事業	12	12	13	191	101	252
サービス業(他に分類されないもの)	130	124	114	741	1,010	1,153

注) 平成 24 年は 2 月 1 日現在、平成 26 年は 7 月 1 日現在、平成 28 年は 6 月 1 日現在のデータ。

資料：「平成 24 年経済センサス-活動調査」(総務省統計局ホームページ、令和 4 年 4 月 1 日時点)

「平成 26 年経済センサス-基礎調査」(総務省統計局ホームページ、令和 4 年 4 月 1 日時点)

「平成 28 年経済センサス-活動調査」(総務省統計局ホームページ、令和 4 年 4 月 1 日時点)

5-1-3 交通

(1) 道路

計画道路周辺の主要道路網及び道路交通センサスの交通量調査地点は、図 5-1-1 に示すとおりである。

これらの地点における平成 22 年度及び平成 27 年度の道路交通量の状況（平日 12 時間交通量）は、表 5-1-4 に示すとおりである。

平成 27 年度の平日 12 時間交通量の状況は、計画道路の起点側（東側）である恋ヶ窪新田三鷹線（小金井市東町）で 7,273 台、終点側（西側）と交差する府中小平線（府中市浅間町）で 10,971 台となっている。

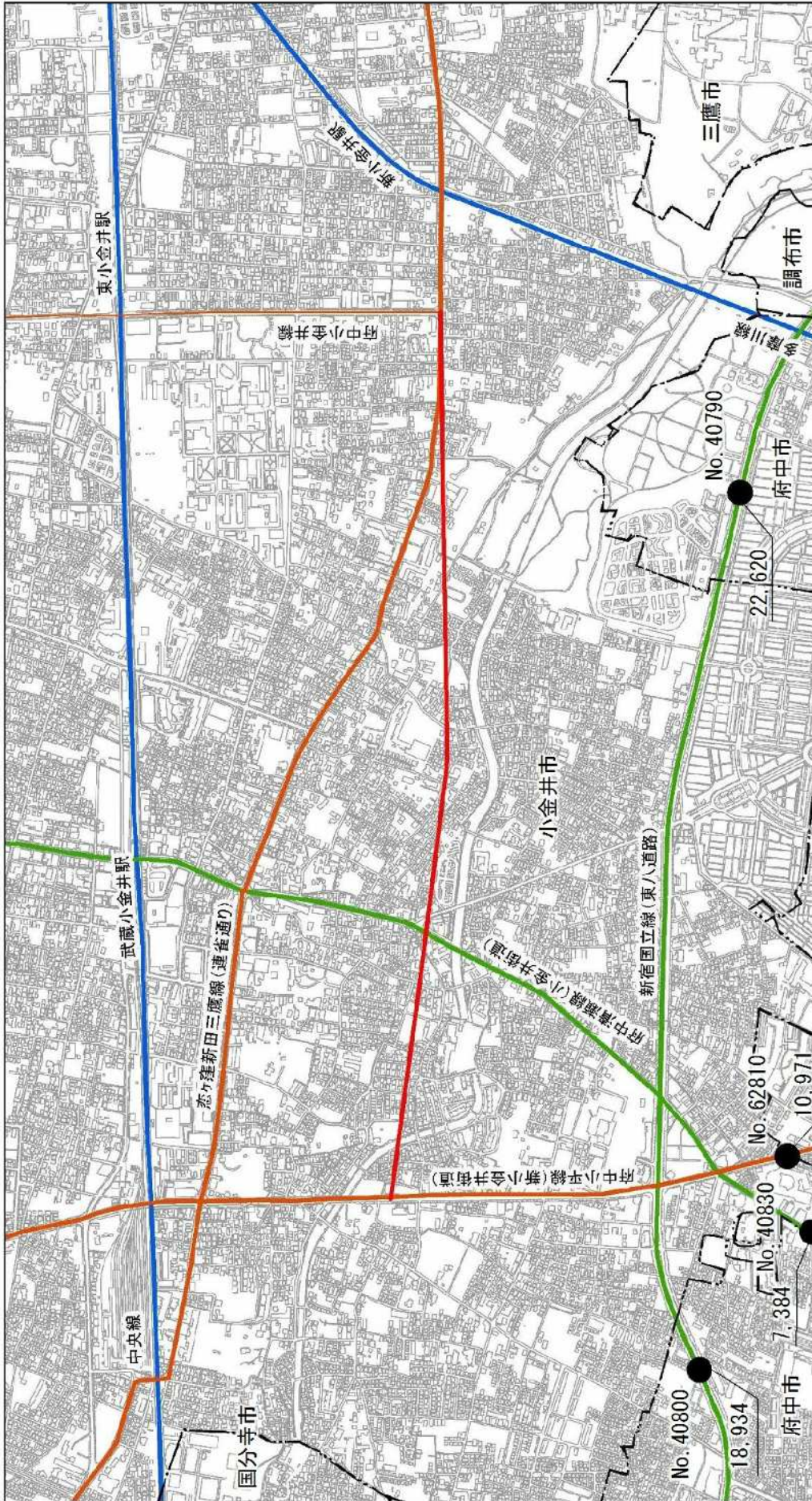
表 5-1-4 道路交通量の状況（平日 12 時間交通量）

路線名 (通称名)	区間 番号	調査地点	平成 22 年度		平成 27 年度	
			12 時間 交通量 (台/12h)	大型車 混入率 (%)	12 時間 交通量 (台/12h)	大型車 混入率 (%)
(主)新宿国立線 (東八道路)	40790	府中市多磨町 4	25,566	11.9	22,620	10.9
(主)新宿国立線 (東八道路)	40800	府中市新町 2-48	20,168	14.1	18,934	13.6
(主)府中清瀬線 (小金井街道)	40830	小金井市前原町 5-3-24	6,960	13.9	7,384	10.7
(都)恋ヶ窪新田 三鷹線(連雀通り)	60480	小金井市貫井北町 5-13-25	8,547	12.9	8,403	11.9
(都)恋ヶ窪新田 三鷹線(連雀通り)	60490	小金井市東町 2-6-4	8,561	8.7	7,273	7.3
(都)府中小平線 (新小金井街道)	62810	府中市浅間町 3-7-13	9,175	15.3	10,971	17.2

注 1) 路線名における(主)、(都)はそれぞれ主要地方道（都道府県道）、一般都道を示す。

注 2) 区間番号は平成 27 年度調査時の番号を示す。

資料：「平成 22 年度 全国道路交通情勢調査 一般交通量調査 箇所別基本表」
(国土交通省道路局、平成 23 年 9 月)
「平成 27 年度 全国道路交通情勢調査 一般交通量調査 箇所別基本表」
(国土交通省道路局、平成 29 年 6 月)



凡例

- 計画道路
- 市界
- 主要地方道
- 一般都道
- 鉄道

● No. 0000
 ● 00,000
 平日12時間台数

● : 交通量調査地点 (12時間)



1:15,000



図 5-1-1 交通網及び交通量調査地点図

(2) 鉄道

計画道路周辺の鉄道網は、図 5-1-1 に示すとおりである。

計画道路周辺には JR 中央線が敷設されているほか、私鉄として西武多摩川線が敷設されている。なお、計画道路と交差する鉄道路線はない。

計画道路北側には JR 中央線の東小金井駅及び武蔵小金井駅、計画道路東側には西武多摩川線の新小金井駅が位置している。各駅における最近 5 年間の年間乗車人員は、表 5-1-5 に示すとおりである。

表 5-1-5 年間鉄道乗車人員数

単位：千人

路線名	駅名	種別	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
JR 中央線	東小金井駅	定期	7,618	7,730	7,895	8,021	8,177
		普通	3,376	3,403	3,454	3,496	3,446
		合計	10,994	11,133	11,349	11,517	11,623
	武蔵小金井駅	定期	14,953	15,103	15,385	15,634	15,933
		普通	7,177	7,175	7,193	7,207	6,966
		合計	22,131	22,278	22,578	22,841	22,899
西武 多摩川線	新小金井駅	定期	356	352	367	387	405
		普通	324	328	330	342	339
		合計	680	680	697	729	744

資料：「東京都統計年鑑（平成27年～平成31・令和元年）」（東京都総務局ホームページ、令和4年4月1日時点）

(3) バス

計画道路を運行するバス路線一覧は表 5-1-6 に、計画道路周辺のバス路線図は図 5-1-2 に示すとおりである。

計画道路周辺には京王バスならびに小田急バスが運行しているほか、小金井市の「CoCo バス」がコミュニティバスとして運行している。

計画道路から最寄のバス停留所は、連雀通り上を運行する京王バス及び CoCo バスの「中町二丁目」及び「武蔵野公園入口」、そのほか、京王バス及び小田急バスの「前原町」、CoCo バスの「天神橋」や「第二中学校東」、「神明宮入口」等となっている。